

高山市子ども読書活動推進計画（第三次）

2020年（令和2年）3月

高 山 市

はじめに

読書は、人間にとって最も基礎的な活動の一つであり、生涯にわたる学習活動の基盤となるものです。

特に子どもの読書活動は、次代を担う子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです。

そのため、国では法律の制定や推進計画の策定を行い、県や市でも同様に計画を策定し、社会全体で子どもの読書活動の推進に努めてきました。

近年、インターネットをはじめとする情報通信技術の急速な発達により、子どもだけではなく大人の生活環境も大きく変化し、便利さの陰で、人間関係が希薄になり、実際の体験や創造力を伸ばす機会が少なくなっています。

また、依然として活字離れや読書離れが問題となっている中、子どもの読書活動を推進するためには、身近な大人が協働・連携して社会全体で子どもが自主的に読書に親しみ、それぞれの発達段階に応じた読書活動ができる環境を整える必要があります。

子どもの読書環境を整え、子どもの自主的な読書活動を啓発し、その継続を支援するため「高山市子ども読書活動推進計画（第二次）」の視点、基本方針を踏襲しつつ、国及び県の計画内容を踏まえ、本市の実情に即した「高山市子ども読書活動推進計画（第三次）」を策定し、引き続き子どもの読書活動を推進します。

2020年（令和2年）3月



目 次

第1章 第三次計画の策定にあたって	1
1 第三次計画策定の背景	1
(1) 国の動き	1
(2) 県の動き	1
第2章 第三次計画の基本的な考え方	3
1 計画の目的	3
2 計画の位置づけ	3
3 計画の対象	3
4 計画の期間	3
第3章 第二次計画における取り組み	4
1 視点と基本方針	4
(1) 家庭における子どもの読書活動の推進	4
(2) 学校等における子どもの読書活動の推進	4
(3) 地域における子どもの読書活動の推進	4
2 高山市図書館の現状	4
(1) 利用状況	4
(2) 世代別利用者数の推移	5
(3) 世代別貸出冊数の推移	5
3 基本方針ごとの取り組み	6
(1) 家庭における子どもの読書活動の推進	6
(2) 学校等における子どもの読書活動の推進	6
○保育園、幼稚園 ○学校		
(3) 地域における子どもの読書活動の推進	10
○児童館等、地域の公共施設 ○市図書館 ○地域全体		
4 今後望まれる方向	11
第4章 第三次計画の目標、基本方針	12
1 目標と基本方針	12
○目標 ○基本方針		
第5章 子どもの読書活動推進のための施策	13
1 家庭における子どもの読書活動の推進	13
(1) 家庭の取り組み	13
① 読書に親しむきっかけづくり	13
② ブックスタート事業の充実	13

2	学校等における子どもの読書活動の推進	・・・	14
	(1) 保育園、幼稚園等の取り組み	・・・	14
	① 保育園、幼稚園等における子どもの読書活動の推進	・・・	14
	② 特別な支援の必要がある子どもの読書活動の推進	・・・	16
	(2) 学校の取り組み	・・・	16
	① 学校の体制づくり	・・・	16
	② 学校図書館の整備・充実	・・・	17
	③ 特別な支援の必要がある子どもの読書活動の推進	・・・	17
	④ 学校図書館と公立図書館との連携	・・・	18
3	地域における子どもの読書活動の推進	・・・	19
	(1) 子育て支援施設等の取り組み	・・・	19
	① 児童館等、子育て支援事業における子どもの読書活動の推進	・・・	19
	(2) 図書館の取り組み	・・・	20
	① 図書館機能の充実	・・・	20
	② 本との出会いの提供	・・・	20
	③ 障がいのある子どもの読書活動の支援	・・・	22
	④ 在住外国人の子どもの読書活動の支援	・・・	22
	⑤ ボランティア活動等への支援	・・・	23
	⑥ 職員の資質向上	・・・	24
	(3) 市民活動団体等への取り組み	・・・	24
	① 市民活動団体等の読書活動への支援	・・・	24
4	子どもの読書への関心を高める読書活動の推進	・・・	25
	(1) 読書への関心を高める取り組み	・・・	25
5	子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進	・・・	26
	(1) 啓発・広報の推進	・・・	26
第6章 計画の推進に向けて		・・・	27
1	計画の推進	・・・	27
2	数値目標	・・・	28
資料編			
	・アンケート調査結果	・・・	30
	・高山市子ども読書活動推進計画策定経緯	・・・	65
	・子どもの読書活動の推進に関する法律	・・・	66

第1章 第三次計画の策定にあたって

1 第三次計画策定の背景

(1) 国の動き

平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、子どもの読書活動の推進に関する基本理念が定められました。この法律に基づき、平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(第一次)が策定され、施策の基本的方針とともに国及び地方公共団体の取り組みが明らかにされました。その後、平成20年3月には第二次計画、平成25年5月には第三次計画、平成30年4月に第四次計画が策定され、子どもの読書活動の推進方策が示されています。

第四次計画の改正の主なポイントとして、「読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取り組みを推進」「友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取り組みを充実」「情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響に関する実態把握・分析」が挙げられています。

また、平成20年6月には「図書館法」、平成24年12月には「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」、平成26年6月には「学校図書館法」が改正され、子どもの読書活動に関連する法整備もすすめられています。

(2) 県の動き

県においても、国の計画を踏まえ、平成16年3月に「岐阜県子どもの読書活動推進計画」(第一次)、平成22年3月に第二次計画、平成27年3月には第三次計画が策定され、県が取り組むべきこと、市町村での取り組みが期待されること示されています。

◎子どもの読書活動に関連する法律等の推移

平成 13 年 12 月	子どもの読書活動の推進に関する法律
平成 14 年 8 月	子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（国：第一次計画）
平成 16 年 3 月	岐阜県子どもの読書活動推進計画（第一次）
平成 17 年 7 月	文字・活字文化振興法
平成 20 年 3 月	子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（国：第二次計画）
平成 20 年 6 月	図書館法の改正、国民読書年（平成 22 年）に関する決議
平成 22 年 3 月	岐阜県子どもの読書活動推進計画（第二次）
平成 24 年 12 月	図書館の設置及び運営上の望ましい基準
平成 25 年 5 月	子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（国：第三次計画）
平成 26 年 6 月	学校図書館法の一部を改正する法律
平成 27 年 3 月	岐阜県子どもの読書活動推進計画（第三次）
平成 30 年 4 月	子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（国：第四次計画）

第2章 第三次計画の基本的な考え方

1 計画の目的

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生を深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものとする「子どもの読書活動の推進に関する法律」の趣旨を実現できるよう、本計画では、子どもの読書活動をより一層推進することを目指し、本市における子どもの読書活動を推進するための目標や基本方針を明らかにして、関連する施策に総合的、計画的に取り組むことを目的に策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条に基づく、市町村の計画として位置づけ、国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「岐阜県子どもの読書活動推進計画」を踏まえ、第八次総合計画、教育振興基本計画との整合を図りながら、高山市における子どもの読書活動の推進に関する具体的な施策について定めるものです。

3 計画の対象

- 子どもとは「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条に基づき、概ね18歳以下をいいます。計画の対象は子どもの読書活動の推進に関わる全市民とします。

4 計画の期間

計画期間は、2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）までの5年間とします。

第3章 第二次計画における取り組み

1 視点と基本方針

第二次計画では、「すべての子どもが、すすんで読書活動を行い、読書に親しむことができる環境づくり」を視点とし、

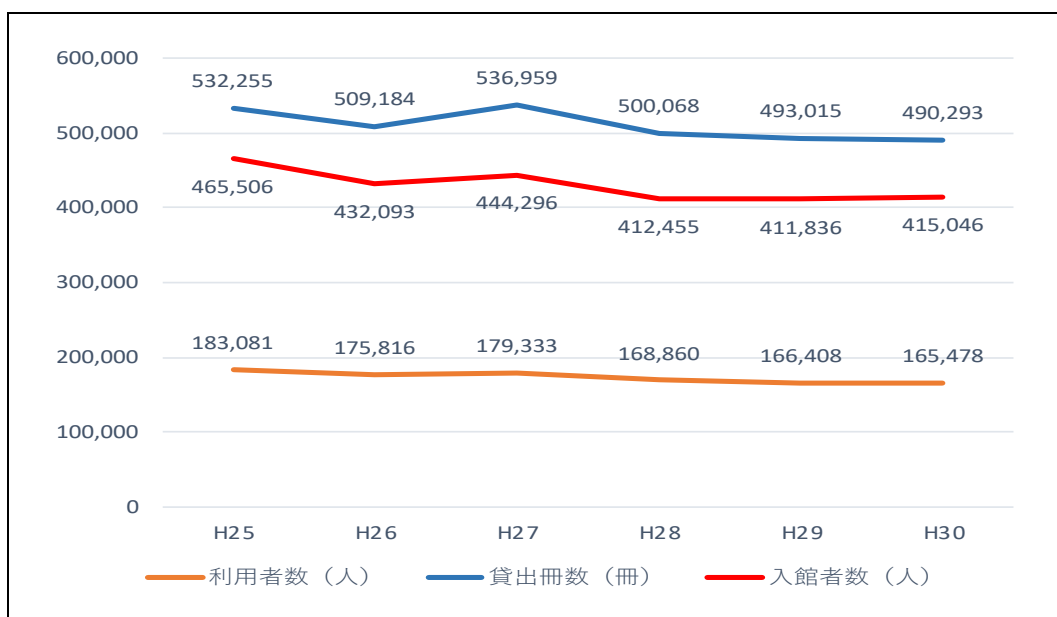
- (1) 家庭における子どもの読書活動の推進
- (2) 学校等における子どもの読書活動の推進
- (3) 地域における子どもの読書活動の推進

を基本方針として定め、それぞれにおける具体的な施策を示し取り組みました。

2 高山市図書館の現状

(1) 利用状況

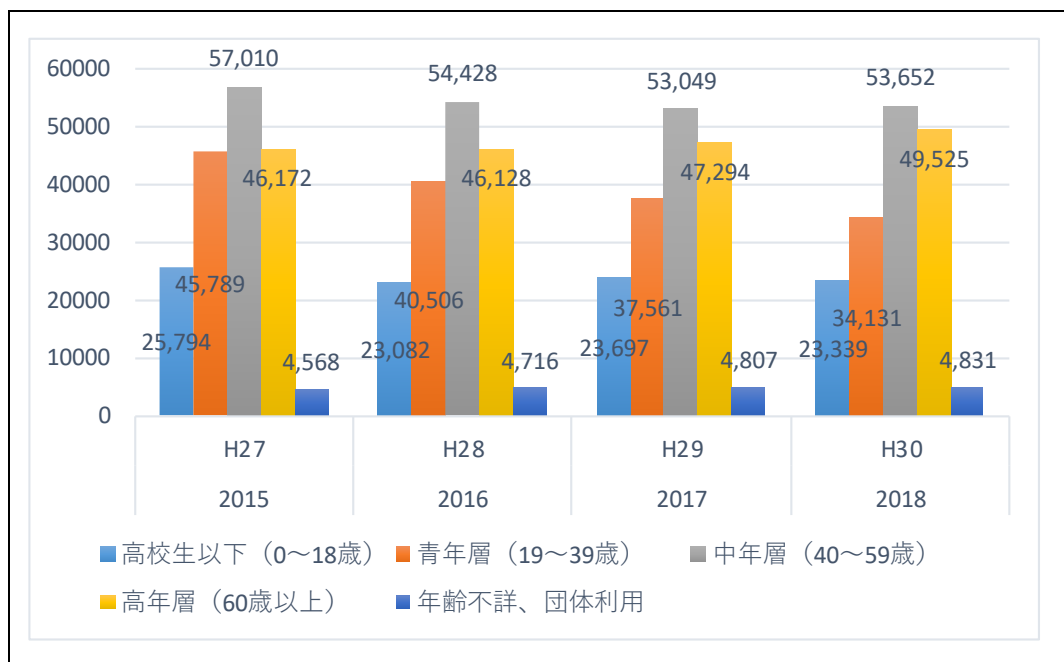
- ・入館者数（観光客含む）は、平成25年度の465,506人に対し、平成30年度は415,046人で10.8%減少しています。
- ・利用者数（本等を貸し出した人数）は、平成25年度の183,081人に対し、平成30年度は165,478人で9.6%減少しています。
- ・貸出冊数（貸し出した本等の総数）は、平成25年度の532,255冊に対し、平成30年度は490,293冊で7.9%減少しています。



資料：図書館

(2) 世代別利用者数の推移

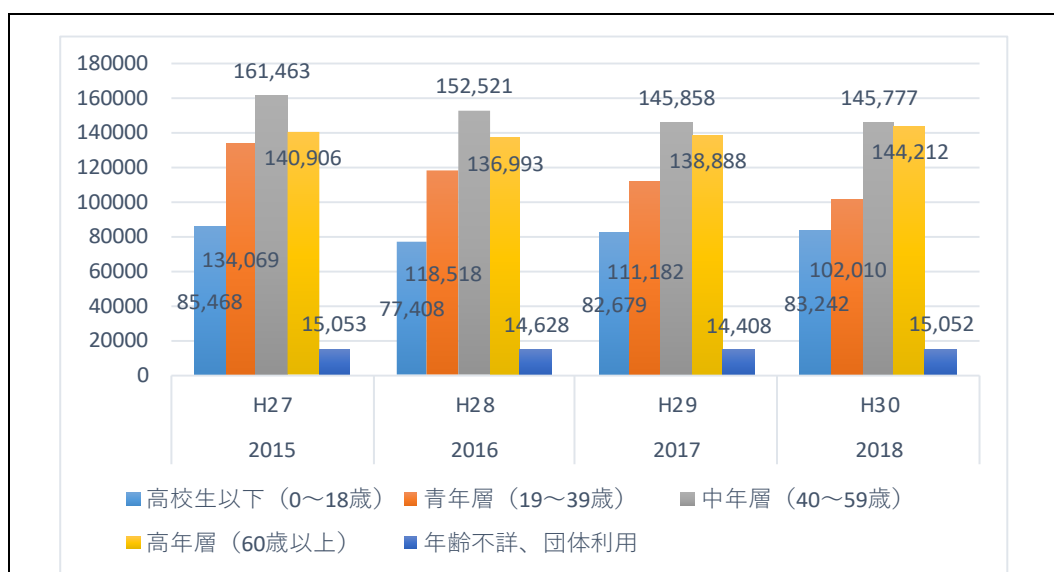
- ・世代別の利用者数では、平成27年度からの4年間で、最も減少しているのは青年層（19～39歳）で25.5%減少し、次に高校生以下（0～18歳）が9.5%減少しています。



資料：図書館

(3) 世代別貸出冊数の推移

- ・世代別貸出冊数では、平成27年度からの4年間で、最も減少しているのは青年層（19～39歳）で23.9%減少し、次に中年層（40～59歳）が9.7%減少、次に高校生以下（0～18歳）が2.6%減少しています。



資料：図書館

3 基本方針ごとの取り組み

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

- ・日常生活における家庭内での読書活動を推進するため、ブックスタート(※)事業を充実し取り組んでいます。
- ・ブックスタート事業は、4か月児、1歳6か月児への読み聞かせや絵本のプレゼントを実施し、保護者が子どもへの読み聞かせを始めるきっかけづくりを行っています。
- ・市図書館では読み聞かせやおはなし会の開催、季節や行事にあわせた特集展示、「図書館だより」や「木のくにだより」による本やイベントの紹介など、家庭で本に親しむきっかけづくりを行っています。

◎ブックスタート事業における絵本の引き換え率

対 象	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
4か月児	96.8%	※ 100.1%	※ 100.8%	※ 102.4%
1歳6か月児	73.9%	70.4%	72.5%	65.6%

※「里帰り出産者」への配本実施などのため。

資料：子育て支援課

(※) ブックスタート：赤ちゃんと保護者に「絵本」を贈り、絵本を通してふれあうきっかけをつくる活動

(2) 学校等における子どもの読書活動の推進

○保育園、幼稚園

- ・保育園、幼稚園では、日常生活の中での絵本の読み聞かせや紙芝居、園だよりを通し、保護者への啓発や絵本の紹介を行っているほか、ボランティアや保護者による読み聞かせ、職場体験学習の中学生による読み聞かせなども行っています。
- ・保育士等も読み聞かせや読書・絵本に関する研修に参加するなど、技術や知識の習得に努めています。

○学校

- ・学校図書館における一人あたりの年間貸出冊数は、小学校では上昇していますが、中学校では減少しており、中学生の活字離れがすすんでいます。
- ・小・中学校では、平成29年度より図書館指導員が配置され、司書教諭と連携した学校図書館の運営が行われています。また、司書教諭や図書館指導員の研修により、魅力ある学校の図書館づくりを行うなど

利用促進に努めています。

- ・読書の習慣化を図るため、朝読書や給食配膳時での読書、全校一斉読書などを行っているほか、学校図書館が読書センターとしての機能に加え、学習センターとしての機能を高めるために図書整備が行われています。
- ・「図書館を使った調べる学習コンクール」では、子どもが自ら課題を見つけ、図書館で調べ、まとめ、伝えるという発展的な活動がすすめられています。
- ・学校図書館は、児童生徒の癒しの場、落ち着いて利用できる環境づくりや、特別な支援が必要な子どもに対しても、それぞれにあった読み聞かせを行うなど、きめ細かな読書環境の整備や読書活動がすすめられています。
- ・学校図書館と市図書館、関係機関が連携を深め、子どもの読書活動を推進するために組織された「高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会」(H21.8 設立)では、読み聞かせやブックトーク、団体貸し出し、情報交換や研修などを行っています。
- ・学校に無い本の貸し出しについては、市図書館と県図書館のネットワークの活用、市図書館と分館、学校図書館による本の相互貸出が行われています。

◎小学校、中学校における現状調査結果

項目	学校別	H19 年度	H25 年度	H30 年度	県 (H28)	国 (H28)
「一斉読書」実施学校	小学校	100%	100%	100%	100%	97.1%
	中学校	100%	100%	100%	100%	88.5%
「必読書・推薦図書」 を定めている学校	小学校	85.7%	100%	100%	100%	—
	中学校	58.3%	100%	100%	100%	—
「読み聞かせ」実施学校	小学校	100%	100%	100%	96.0%	—
	中学校	33.3%	58.3%	33.3%	19.8%	—
「読書相談」実施学校	小学校	71.4%	100%	100%	—	—
	中学校	83.3%	100%	100%	—	—
一人あたり年間貸出 冊数	小学校	53.7 冊	81.4 冊	85.2 冊	—	—
	中学校	37.1 冊	31.6 冊	24.4 冊	—	—
「図書標準達成」学校 (標準蔵書冊数)	小学校	95.2%	89.5%	100%	98.9%	66.4%
	中学校	100%	83.3%	100%	80.1%	55.3%
「司書教諭」配置学校 (12 学級以上の学校配置)	小学校	100%	100%	100%	100%	99.3%
	中学校	100%	100%	100%	100%	98.3%

「図書館指導員」配置学校	小学校	100%	100%	100%	91.1%	59.2%
	中学校	100%	100%	100%	86.1%	58.2%

「-」 調査データ無し

資料：各学校調査

◎「図書館を使った調べる学習コンクール」の実績

年 度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
応募作品数	267 作品	295 作品	551 作品	382 作品	274 作品
全 国 大 会 における成績	優秀賞 1 作品	—	—	優秀賞 1 作品	優秀賞 1 作品
	優良賞 3 作品	優良賞 3 作品	優良賞 2 作品	—	—
	奨励賞 1 作品	奨励賞 1 作品	奨励賞 4 作品	奨励賞 4 作品	—
	佳 作 1 作品	佳 作 2 作品	佳 作 5 作品	佳 作 3 作品	佳 作 5 作品

資料：学校教育課

◎読書への関心を高める取り組み状況（平成30年度）

○子どもが相互に図書を紹介し、様々な分野の図書に触れる活動

項 目	小中学校別	実 施 率
(1) 読書会※1	小 学 校	15.8%
	中 学 校	16.7%
(2) ペア読書※2	小 学 校	0.0%
	中 学 校	0.0%
(3) おはなし（ストーリーテリング）※3	小 学 校	10.5%
	中 学 校	0.0%
(4) ブックトーク※4	小 学 校	78.9%
	中 学 校	58.3%
(5) アニメーション※5	小 学 校	15.8%
	中 学 校	8.3%
(6) 書評合戦（ビブリオバトル）※6	小 学 校	5.3%
	中 学 校	25.0%

資料：各学校調査

※1 読書会

数人で集まり、本の感想を話し合う活動である。その場で同じ本を読む、事前に読んでくる、一冊の本を順番に読むなど、様々な方法がある。この取り組みにより、本の新たな魅力に気付き、より深い読書につなげることができる。

※2 ペア読書

2人で同じ本を同じ量、例えば80ページまで読んで、感想や疑問を話し合う。次は120ページまで読んで、感想や疑問を話し合うといったことを繰り返す読書

法。作品の理解が深まり、ペア相手との仲が深まる。ペア読書なら、一人では難しく読めない本にも挑戦することができる。ペア相手は、家族や友達、他の学年の児童生徒など様々なやり方がある。

※3 ストーリーテリング

絵本の絵を見せながら物語を読み聞かせる「読み聞かせ」や本の「朗読」とは異なり、語り手が昔話や創作された物語を全て覚えて自分の言葉で語り聞かせ、聞き手がそれを聞いて想像を膨らませる活動である。ストーリーテリングを通じて、語り手と聞き手の間に心の交流が生まれ、両者が一体となって楽しむことができる。

※4 ブックトーク

相手に本への興味が湧くような工夫を凝らしながら、あるテーマに沿って関連付けて、複数の本を紹介すること。テーマから様々なジャンルの本に触れることができる。

※5 アニマシオン

子どもが本来もっている物語や言葉への興味・関心を導き出し、本を読むことや言葉遊びのおもしろさ、楽しさを体験することで、自主的に読書をする力を引き出す。例えば、登場人物にまつわるクイズや本を読んで感じたことを友達同士で話し合うなど、本来、家庭や地域社会の中で自然に行われている読書体験。

※6 ビブリオバトル

発表者が読んで面白いと思った本を一人5分程度で紹介し、その発表に関する意見交換を2～3分程度行う。全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動。ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができる。



学校図書館（花里小学校）



学校図書館（清見中学校）

(3) 地域における子どもの読書活動の推進

○児童館等、地域の公共施設

- ・児童館や児童センターでは、図書コーナーの設置、絵本の読み聞かせや紙芝居などを行い、読書の機会、本に親しむ機会を提供しています。
- ・職員も読み聞かせや読書・絵本に関する研修に参加するなど、子どもの読書活動に対する重要性を認識し、技術や知識の習得に努めています。

○市図書館

- ・市図書館では、図書資料の充実を図るため、年齢に応じた選書を行い、各分館への配本を行っているほか、季節や行事にあわせた特集展示やボランティアと連携した読み聞かせ、おはなし会の開催、図書館見学や職場体験学習の受け入れなど、図書館を身近に感じ、利用していただけよう様々な取り組みを行っています。
- ・外国語資料の充実に努めるとともに、英語・中国語の利用案内の設置やALT(外国語指導助手)の協力による英語でのおはなし会を行っています。
- ・障がいのある子どもの読書活動を支援するため、郵送での資料貸出や返却、対面朗読のほか、大活字本や録音資料、点字資料、手話や字幕入りの映像資料などの充実を図っています。
- ・職員もレファレンスなどの研修に積極的に参加するなど、技術や知識の習得に努めています。
- ・「高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会」では、学校図書館と市図書館、関係機関が連携した読書活動をすすめています。

◎市図書館における「おはなし会」開催状況

項目	項目	H19年度	H25年度	H30年度
おはなし会の開催	開催数	182回	216回	194回
	参加者数	2,727人	3,436人	3,553人

※開催数は分館を除く

資料：図書館

○地域全体

- ・子育て支援センターやつどいの広場など、乳幼児の保護者が集まる場では、読み聞かせや紙芝居を楽しむ機会を提供しています。
- ・読み聞かせボランティアグループなどの市民活動団体は、市内各所で読み聞かせなどの活動を行っています。

4 今後望まれる方向

保育園や幼稚園、学校、市民活動団体等や市は、子どもの読書活動に対する重要性を認識し、子どもの読書活動を推進するため、関係機関が連携しながら保護者や子どもへの啓発、子ども読書活動推進に取り組んできました。しかし、インターネットをはじめとする情報通信技術の急速な発達により、生活環境が変化する中、子どもの本に親しむ機会が減り、活字離れ、読書離れがすすんでいます。

高山市子ども読書活動推進計画（第二次）の取り組みに対するアンケート結果や関係機関からの意見を踏まえ、これまでの取り組みを更に推進するとともに、下記の点について重点的に取り組む必要があります。

○子どもを取り巻く関係機関の更なる連携

- ・学校図書館と市図書館のほか、保育園や幼稚園、子育て支援施設の連携を更に深め、「高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会」での検討を踏まえた取り組みが必要です。

○市民活動団体等の読書活動への支援

- ・読み聞かせボランティアなど、地域のつながりの中で子どもが読書に親しむ活動が重要です。しかし、市民活動団体の中には、担い手不足による活動を維持することが難しくなっている団体もあります。新たな会員の確保やスタッフの養成など、市民活動団体を支援する取り組みが必要です。

○子どもの読書への関心を高める読書活動の充実

- ・子どものつながりを生かした読書活動が有効とされています。子ども同士、友人同士で本を薦め合うなどの取り組みが必要です。
- ・インターネットなどの情報メディアと子どもの読書のあり方について、国がすすめる「情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響に関する実態把握・分析」を踏まえ、電子書籍の利点を活かした活用についての検討が必要です。

第4章 第三次計画の目標、基本方針

1 目標と基本方針

学びの原点となる「読書」を習慣づけ、生涯にわたり継続的な読書活動を行っていくため、すべての子どもが、すすんで読書活動を行い、読書に親しむことができる環境を整えることを目標とします。また、目標を実現するため、「家庭・学校等・地域における子どもの読書活動の推進、子どもの読書への関心を高める読書活動の推進、子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進」を基本方針とします。

《目 標》

すべての子どもが、すすんで読書活動を行い、
読書に親しむことができる環境を整えます

《基本方針》

すべての子どもが、発達段階や障がいに応じた適切な読書活動を行うことができるよう、身近な大人に対し、子どもの読書活動の意義や必要性を伝えるとともに、家庭・学校等・地域が一体となって、子どもが自主的に本に親しみ、読書を楽しみ、読書習慣を身に付けることができる環境づくりを推進します。

○ 家庭における子どもの読書活動の推進

○ 学校等における子どもの読書活動の推進

○ 地域における子どもの読書活動の推進

○ 子どもの読書への関心を高める読書活動の推進

○ 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

第5章 子どもの読書活動推進のための施策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭の取り組み

- ・子どもにとって最も身近な存在の保護者が、子どもの読書活動の重要性を認識し、子どもと一緒に本に親しみ、楽しむことで、家庭内でのコミュニケーションを深める活動を視点とした家庭での子ども読書活動をすすめます。

① 読書に親しむきっかけづくり

【望まれる方向】

- ・保護者を対象とした講座や読書会の開催など、日常生活（家庭）における本に親しむきっかけづくりを促す取り組みが求められています。

【取組】

- ・保護者等が集まる機会や家庭教育、子育て支援に関する講座等を利用し、子どもの読書活動の重要性について情報を提供し、理解の促進を図ります。
- ・発達段階に応じた子どもにすすめたい本や、子どもと大人と一緒に楽しめる本を紹介し、家庭で読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりするなど、日常生活において本に親しむきっかけづくりをすすめます。
- ・大人が読書活動に理解と関心を示し、生涯にわたり読書活動を継続する姿を子どもに見せることができるよう、読書活動の意義や必要性について啓発するとともに、大人の市図書館の利用についても促進します。

② ブックスタート事業の充実

【望まれる方向】

- ・1歳6か月児の本の引き換え率が減少しています。利用者の声を把握し検証を行い、事業の効果的な周知などの取り組みが求められています。

【取組】

- ・ブックスタート事業による4か月児、1歳6か月児への読み聞かせ体験や絵本のプレゼントにより、子どもが本と出会い、保護者が子ども

への読み聞かせを始めるきっかけづくりをすすめます。

- ・保護者のニーズを把握するとともに関係機関の意見を聞きながら、1歳6か月児の効果的なブックスタート事業の取り組み手法を検討します。
- ・保健センターでの母子健康手帳交付や妊婦教室、子どもの健診や相談などを利用し、子どもの読書活動の重要性の啓発や本選びのための情報提供を行います。
- ・ブックスタート事業にあわせ、市図書館の絵本などの利用案内を行い、家庭内で本に親しみ、楽しむことができる機会を提供します。



ブックスタート事業（保健センター）

2 学校等における子どもの読書活動の推進

(1) 保育園、幼稚園等の取り組み

- ・子どもにとって身近な大人である保育士等が、子どもの読書活動の重要性を認識し、集団生活の中で子どもが本に親しみ、楽しむことを伝えるとともに、保護者への啓発を行い、保育園、幼稚園等や家庭での子ども読書活動をすすめます。

① 保育園、幼稚園等における子どもの読書活動の推進

【望まれる方向】

- ・読み聞かせの機会（中学生・高校生、保護者、親子会、ボランティアなど）の充実や、保育士等の技術、知識の習得、家庭への優良図書の紹介など、家庭内での読書に親しむきっかけづくりが求められています。

【取組】

- ・図書コーナーの整備や市図書館の利用、保育士等や保護者、ボランテ

- ィアによる絵本の読み聞かせや紙芝居など、子どもが本と出会い、親しむきっかけづくりをすすめます。
- ・園だよりや懇談会、講演会等を利用し、読み聞かせの楽しさや方法など、子どもの読書活動の重要性についての意識啓発を図ります。
 - ・市図書館等と連携し、子どもの発達段階に応じた子どもにすすめたい本や、子どもと一緒に楽しめる本を紹介し、家庭での本に親しむきっかけづくりをすすめます。
 - ・中学生、高校生の職場体験学習等において、読み聞かせを行うことを通じ、中学生や高校生にも読書活動の重要性を伝えます。
 - ・保育士等が、読み聞かせや読書・絵本に関する研修や講演会などに参加し、技術や知識の習得に努めるほか、市図書館等と連携し、優良図書等に関する情報収集を行います。



読み聞かせ（保育園）



読書（保育園）

② 特別な支援の必要がある子どもの読書活動の推進

【望まれる方向】

- ・障がいのある子どもが読書しやすい環境づくりが求められています。

【取組】

- ・障がいのある子どもが豊かな読書活動を体験できるよう、障がいの状態に応じた読書活動の環境づくりをすすめます。

(2) 学校の取り組み

- ・子どもにとって身近な大人である教員等が、子どもの読書活動の重要性を認識し、読書習慣を身につけるための環境を整備し、質の良い豊かな読書活動を行うことができるよう支援するとともに、授業や学習における図書館の活用を促進し、学校や家庭での子どもの読書活動をすすめます。

① 学校の体制づくり

【望まれる方向】

- ・子ども同士で本を紹介することによる本への興味や、楽しさにつながる取り組み、読み聞かせボランティアなどによる発達段階に応じた取り組みが求められています。また、一人当たりの年間貸し出し冊数の減少から、中学生の活字離れがすすんでいます。学習計画や年間活動計画を作成するなど、計画的に読書に親しむ環境づくりが求められています。

【取組】

- ・司書教諭や図書館指導員を中心に教員が連携し、発達の段階に応じた読書指導の充実や各教科での学校図書館の活用をすすめます。
- ・学習計画や年中行事などとの関連を図りながら、学校図書館の年間活動計画の作成と計画的な利用をすすめます。
- ・子ども同士で本を紹介する取り組みや全校一斉の読書活動をすすめ、読書の習慣化を図るとともに、市民活動団体等と連携し、読み聞かせやブックトークなどを取り入れ、より多くの本と出会える機会づくりをすすめます。

② 学校図書館の整備・充実

【望まれる方向】

- ・学校図書館が子どもにとって行きたい場所となるよう学校図書館の環境整備、図書館指導員と教員との連携の充実が求められています。また、魅力ある学校図書館となるよう「高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会」での情報交換や検討、図書館指導員と教員の育成・研修が求められています。

【取組】

- ・子どもにすすめたい本、子どもが読みたい本、授業や学習に役立つ本など、バランスのとれた図書購入、適正な除籍をすすめ、読書に親しめる図書館づくりをすすめます。
- ・読書センターとしての機能に加え、学習センターとしての機能を高めるため、学習に役立つ図書の充実を図り、利用したくなる学習環境づくりをすすめます。
- ・子どもがすすんで本を探し、本に親しみ、楽しむとともに、本から学んだことをさらに学習に活かせるよう調べ学習をすすめます。
- ・おすすめ本の紹介やイベントなど、子どもが読書や図書館に興味を持つきっかけづくりをすすめます。
- ・子どもの読書相談への対応や足を運びたくなる魅力ある図書館づくりを行うことができる司書教諭や図書館指導員の育成・研修に努めます。
- ・魅力ある学校図書館となるよう「高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会」での情報交換や検討、育成・研修をすすめます。

③ 特別な支援の必要がある子どもの読書活動の推進

【望まれる方向】

- ・障がいのある子どもが読書しやすい環境づくりが求められています。

【取組】

- ・障がいのある子どもが豊かな読書活動を体験できるよう、障がいの状態に応じた選書や読書環境の整備をすすめます。
- ・司書教諭や図書館指導員が連携し、障がいのある子どもの興味関心に応じた選書をすすめます。
- ・落ち着いて利用しやすい図書館の環境整備をすすめます。

④ 学校図書館と公立図書館との連携

【望まれる方向】

- ・学校図書館と公立図書館（県・市図書館、他自治体図書館）の連携体制が整ってきましたが、市図書館で借りた本の運搬方法の検討、公立図書館のブックリストを学校図書館に知らせることなどが求められています。更なる連携強化を図るため「高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会」の役割が重要となっています。

【取組】

- ・市図書館と連携し、「団体貸出」の利用や調べ学習の支援など、子どもがより多くの本と出会える環境づくりをすすめます。
- ・特別支援学校やであい塾などを含め、学校から市図書館に出かけ、調べ学習や本に親しむきっかけづくりをすすめます。
- ・国立国会図書館や県図書館などを活用し、調べ学習への支援や子どもがより多くの本と出会える環境づくりをすすめます。
- ・市図書館で借りた本の運搬方法を検討します。
- ・市図書館のブックリストを学校図書館に情報提供します。
- ・更なる連携を図るため「高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会」の活動の活性化を図ります。



読み聞かせ（小学校）



ブックトーク（中学校）

3 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 子育て支援施設等の取り組み

- ・児童館や児童センター、子育て支援センター、つどいの広場、放課後児童クラブなど、子どもに関わる地域の公共施設においても、子どもの読書活動の重要性を認識し、子どもが本と出会い、親しみ、楽しむきっかけづくりとなる環境を整備し、子どもの読書活動をすすめます。

① 児童館等、子育て支援事業における子どもの読書活動の推進

【望まれる方向】

- ・図書館を利用していない保護者には、子育て支援関連施設との連携による読書活動の必要性を啓発するため、子育て支援団体とボランティア団体が連携・協力し、乳幼児期から読書に親しむ啓発活動をすすめることが求められています。

【取組】

- ・図書コーナーの整備や市図書館の利用、子育て支援団体とボランティア団体との連携による子どもや保護者等を対象にした読み聞かせやストーリーテリングなどを行い、子どもが本と出会い、親しむきっかけづくりをすすめます。
- ・市図書館等と連携し、子どもの発達段階に応じた子どもにすすめたい本や、子どもと一緒に楽しめる本を紹介し、家庭で本に親しむきっかけづくりをすすめます。
- ・施設の職員が、読み聞かせや読書・絵本に関する研修や講演会などに参加し、技術や知識の習得ができるよう支援するほか、市図書館等と連携し、優良図書等に関する情報の収集をすすめます。



国府児童館

(2) 図書館の取り組み

- ・子どもの読書活動を推進するために、関係機関や市民活動団体等が連携、協力を図るうえで、中心的な役割を果たすのが市図書館です。市図書館での読書環境や読書推進事業のさらなる充実を図るほか、学校や市民活動団体等との連携を強化し、子どもが本や図書館に親しむ機会を増やすとともに、地域に関する郷土愛や夢の育みにつながる資料の充実など、家庭・学校等・地域での子どもの読書活動をすすめます。

① 図書館機能の充実

【望まれる方向】

- ・中学生や高校生のニーズに応じた資料の充実や、図書館が子どもにとって行きたい場所となるよう魅力的な読書環境の整備が求められています。

【取組】

- ・読み継がれてきた本を大切にしながら、新たな読書需要に対応できるよう本や雑誌、視聴覚資料など、幅広く資料を収集・充実します。
- ・中学生や高校生が調査研究や課題解決を図る際に必要な情報や資料の提供ができるよう資料を収集・保存します。
- ・子どもにすすめたい本や郷土資料、学習に役立つ資料などを積極的に選書するとともに、バランスのとれた資料購入、適正な除籍をすすめます。
- ・学んだ成果を地域活動に生かし、自主的に地域活動に参画することができるよう、地域について学べる資料を収集・充実します。
- ・資料閲覧や学習支援の機能の提供だけでなく、子どもの読書活動を通じ、誰もがつどい交流し、地域コミュニティの促進や地域社会の活性化など、新たな「場」としての図書館機能について検討をすすめます。

② 本との出会いの提供

【望まれる方向】

- ・図書館での読書への関心を高める取り組み（ブックトーク、ビブリオバトルなど）や学校への指導、学校へのイベント周知が求められています。また、読書だけではなく、新たな図書館利用のあり方を検討する必要があります。

【取組】

- ・ブックスタート事業やおはなし会の開催など、定期的な読み聞かせを継続するとともに、ブックトークやストーリーテリング、ビブリオバトルなどを行い、本と出会い、親しむきっかけづくりをすすめます。
- ・ALT（外国語指導助手）等の協力を得て、多言語での読み聞かせを行うなど、幅広い読書活動をすすめます。
- ・外国語絵本等を展示紹介し、外国の言語や文化に親しむ機会を提供します。
- ・季節や行事等にあわせ、テーマ別のブックリスト作成や特集展示を行い、本選びを支援します。
- ・自ら文字を書き込む「読書通帳」の利用促進を図り、すすんで読書活動を行い、読書に親しむことができる環境づくりをすすめます。
- ・図書館見学や職場体験学習を積極的に受け入れます。
- ・学校や地域の公共施設等への団体貸出を行い、子どもがより多くの本と出会える環境づくりをすすめます。
- ・配置方法等、子どもが利用しやすい環境を整備します。
- ・「子ども読書の日」（4月23日）や「文字・活字文化の日」（10月27日）などにあわせ、読書活動の啓発を行います。



図書館フェスティバル（煥章館）



木のくに子ども図書館（煥章館）

③ 障がいのある子どもの読書活動の支援

【望まれる方向】

- ・障がいの有無にかかわらず誰もが読書がしやすい環境が求められています（読書バリアフリー法）。読書環境の整備やボランティアと連携した取り組みが求められています。

【取組】

- ・郵送貸出や対面朗読、音訳等の各種サービスや大活字本、録音資料、点字資料、手話や字幕入りの映像資料の整備をすすめます。
- ・手話や点訳、音訳ボランティアの活動を支援します。

④ 在住外国人の子どもの読書活動の支援

【望まれる方向】

- ・在住外国人の利用状況の分析やニーズを把握した選書、ALT（外国語指導助手）等によるおはなし会への参加を呼び掛けるなど、読書活動の支援が求められています。

【取組】

- ・洋書の絵本の整備や外国語で書かれた資料の整備をすすめます。
- ・外国語版の利用案内等を作成するなど、図書館の利用を呼びかけます。
- ・ALT（外国語指導助手）等によるおはなし会を通じた交流の機会の提供をすすめます。



ALTおはなし会（煥章館）



ボランティア読み聞かせ（煥章館）

⑤ ボランティア活動等への支援

【望まれる方向】

- ・ボランティアグループの担い手不足が課題となっています。ボランティアグループ同士の交流会を充実することにより、ボランティアが抱える課題の解消に向けた取り組みが求められています。

【取組】

- ・子どもの読書活動を推進するボランティア活動や、さまざまな知識・技術の習得を支援するとともに、ボランティアと連携して、読書推進事業をすすめます。
- ・ボランティアグループ同士の交流会の開催方法を見直し、課題解決に向けた検討や情報交換など、より充実した交流会の開催を検討します。



ボランティア交流会（煥章館）



図書の装備、修理（ボランティア）

⑥ 職員の資質向上

【望まれる方向】

- ・ 図書館職員が講師となり講座を開催するなど、専門的な知識のフィードバックや学校、各種団体との交流による地域に根差した図書館職員の活動が求められています。

【取組】

- ・ 選書や適切な情報提供ができるよう知識や技術の養成・向上をすすめます。
- ・ 読書活動を推進するため、職員が指導者となり、関係団体を対象とした講座の開催を検討します。

(3) 市民活動団体等への取り組み

- ・ 自主的に子どもの読書活動を推進する団体などが、それぞれの学びの成果を社会に活かすための機会を提供するとともに、その活動を支援し、地域のつながりの中で、子どもが本と出会い、親しみ、楽しむ環境づくりをすすめます。

① 市民活動団体等の読書活動への支援

【望まれる方向】

- ・ 市民活動団体の担い手不足が課題となっています。団体の交流会、研修会、イベントへの活用、各種団体の紹介などによる若手ボランティアの育成や、新たな会員の増加に向けた取り組みが求められています。

【取組】

- ・ 保育園や幼稚園、学校、児童館等での読み聞かせなど、市民活動団体に協力いただくほか、ボランティア団体や読者サークル等、市民活動団体を支援します。
- ・ 絵本展や絵本作家による講演会、ワークショップなどを開催し、子どもを取り巻く大人の読書活動への理解と関心を高めるとともに、新たなスタッフの養成や活動を始めた人を支援します。
- ・ 図書館のホームページを活用し、読書活動に関わる市民活動団体やボランティア活動を紹介します。
- ・ あらゆる媒体を活用し、子どもにすすめたい本や新刊書の紹介、研修会や講演会など、子どもの読書活動の推進につながる情報を提供します。

4 子どもの読書への関心を高める読書活動の推進

(1) 読書への関心を高める取り組み

- ・同世代の子ども同士での本の面白さを伝えたり、相手の読書傾向を知って読書の幅を広げ、読書への関心を高めたりする取り組みをすすめます。
- ・国がすすめる「情報環境の変化が子どもの読書環境に与える影響に関する実態把握・分析」を踏まえ、電子書籍の利点を活かした活用を検討します。

【望まれる方向】

- ・読書が好きな子どもの育成を図るため、子ども同士で本をすすめ合うなど、子どもの自主的、自発的な読書活動の充実や電子書籍を活用した新たな読書環境を創出することが求められています。

【取組】

- ・あらすじや著者紹介等を交え、興味がわくよう本の内容を紹介するブックトークをすすめます。
- ・発表者が読んで面白いと思った本を紹介し、どの本が一番読みたくなったかを競うビブリオバトルなど、読書への関心を高める活動を検討します。
- ・図書館業務を体験（貸出・返却などのカウンター業務、本の装備、絵本の読み聞かせなど）する機会を充実することにより、図書館に興味をもち、友達に読書の楽しさを伝えることができる読書が好きな子どもの育成を図ります。
- ・「高山市子ども読書活動支援・図書館連携協議会」において、電子書籍の利点を活かした活用を検討します。

5 子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進

(1) 啓発・広報の推進

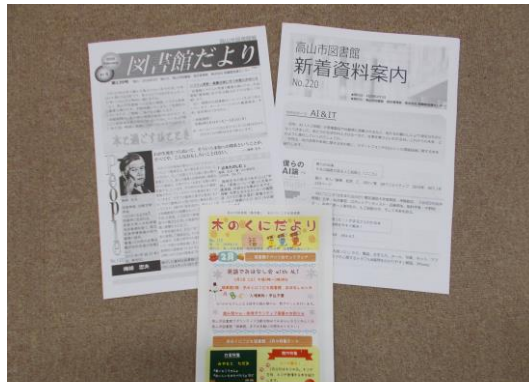
- ・子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や必要性に対する市民の広い関心と深い理解が必要です。あらゆる機会や情報媒体を通じ、啓発活動をすすめます。

【望まれる方向】

- ・「子ども読書の日」、「文字・活字文化の日」の啓発を含め、図書館での取り組みをあらゆる機会、あらゆる媒体を活用し普及・啓発することが求められています。

【取組】

- ・子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために設けられた「子ども読書の日」(4月23日)や、文字・活字文化についての関心と理解を深めるために設けられた「文字・活字文化の日」(10月27日)をはじめ、図書館で発行される広報誌やホームページ、テレビ・ラジオなど、あらゆる機会、あらゆる媒体を通じて、広く普及・啓発をすすめます。



図書館広報紙

第6章 計画の推進に向けて

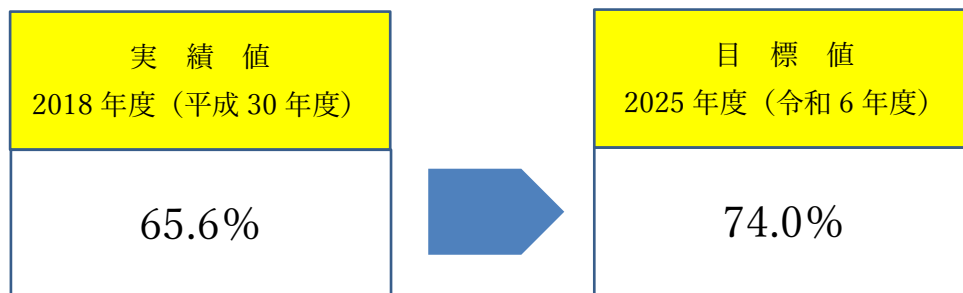
1 計画の推進

- ・第5章の「子どもの読書活動推進のための施策」を「高山市子どもの読書活動支援・図書館連携協議会」が中心となり、関係機関と連携し計画的に推進します。
- ・目標を具現化するための具体的な取り組みの進捗を管理するため、「家庭における子どもの読書活動の推進」、「学校等における子どもの読書活動の推進」、「地域における子どもの読書活動の推進」、「子どもの読書への関心を高める取り組み」、「子どもの読書活動に関する啓発・広報の推進」からなる5つの施策ごとに数値目標を設定します。
- ・なお、本計画の期間を2020年度（令和2年度）からの5年間としていることから、目標年度を2025年度（令和6年度）とします。

2 数値目標

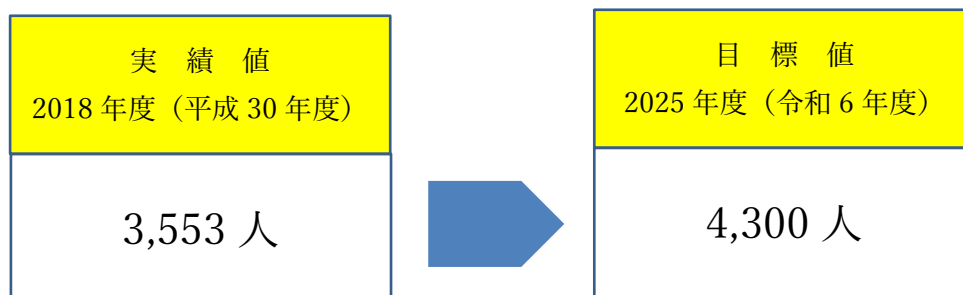
(1) 「家庭における子どもの読書活動の推進」

①ブックスタート配布率 1歳6か月児



○高山市子ども読書活動推進計画（第二次）期間中で、最も高い交付率を目指します。

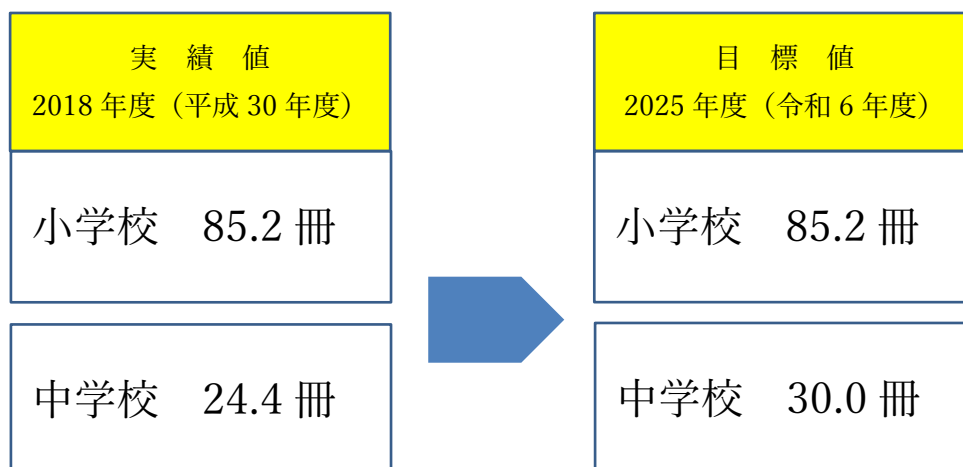
②図書館（本館・分館）における「おはなし会」参加者数



○参加者数は増加傾向（H19年度～H30年度）です。更なる参加者の増加を目指します。

(2) 「学校における子どもの読書活動の推進」

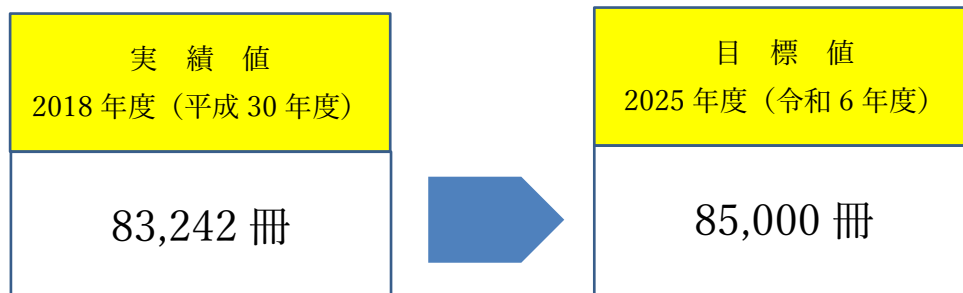
①1人あたり年間貸出冊数



○小学校は現状を維持し、中学校は減少傾向にあることから20%の増加を目指します。

(3) 「地域における子どもの読書活動の推進」

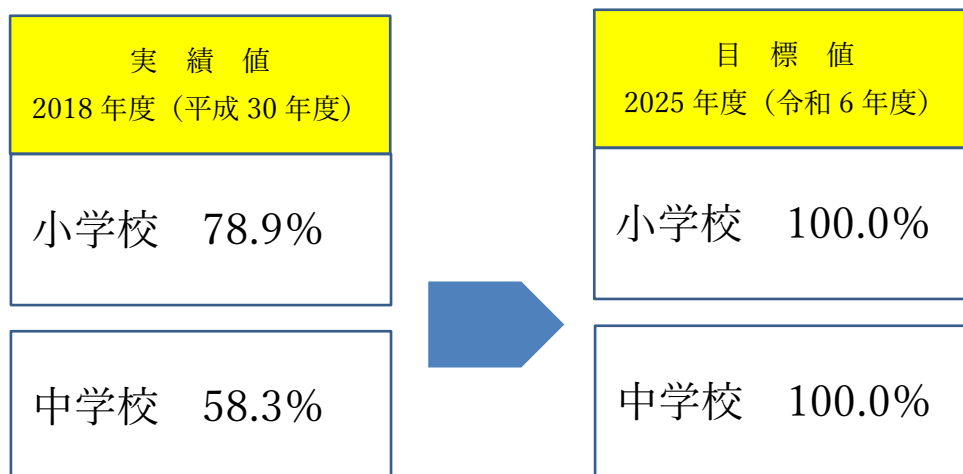
①高山市図書館における高校生以下の貸し出し冊数



○高山市子ども読書活動推進計画（第二次）期間中で、最も高い平成27年度の貸し出し冊数を目指します。

(4) 「子どもの読書への関心を高める取り組み」

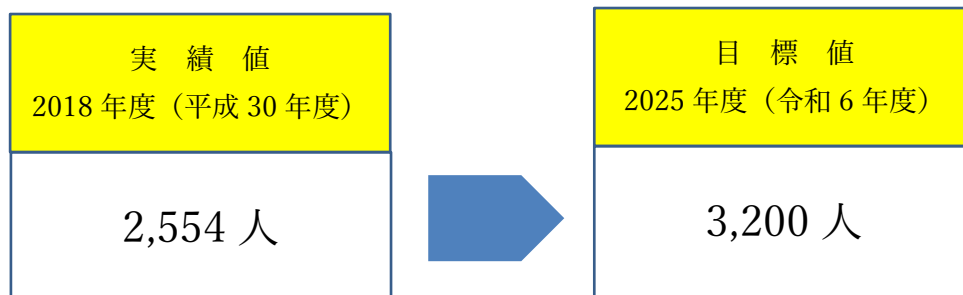
①学校におけるブックトーク実施率



○児童生徒の読書活動を推進するため、全学校での実施を目指します。

(5) 「子ども読書活動に関する啓発・広報の推進」

①図書館（本館・分館）フェスティバル参加者数



○新たな利用者層を獲得するためフェスティバルの内容を見直し、参加者の増加を目指します。

資料編

- 1 アンケート調査結果（意見）
- 2 高山市子ども読書活動推進計画策定経緯
- 3 子どもの読書活動の推進に関する法律

○アンケート調査結果

1. 調査の目的

アンケート調査は、第三次高山市子ども読書活動推進計画を策定するにあたり、第二次計画の取り組みに対する意見など、学校や地域のみなさんの声を広く計画に反映するために実施しました。

2. 調査期間

令和元年5月30日（木）～7月5日（金）

3. 調査方法

調査地域	高山市内全域
調査方法	郵送などによる配布・回収、記名式
調査対象	104団体 幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、読書サークル、読み聞かせ等ボランティア団体、社会教育委員

4. 調査項目

- ・日常生活における読書活動の推進について
- ・ブックスタート事業の充実について
- ・保育園、幼稚園等における子どもの読書活動の推進について
- ・学校の体制づくりについて
- ・学校図書館の整備・充実について
- ・特別な支援の必要がある子どもの読書活動の推進について
- ・学校図書館と公立図書館との連携について
- ・児童館等、地域の公共施設における子どもの読書活動の推進について
- ・資料の充実について（市図書館）
- ・本との出会いの提供について（市図書館）
- ・障がいのある子どもの読書活動への支援について（市図書館）
- ・在住外国人の子どもの読書活動への支援（市図書館）
- ・ボランティア活動等への支援について（市図書館）
- ・職員（公立図書館・学校図書館）の資質向上
- ・市民活動団体等の読書活動への支援について
- ・新たな読書環境への対応について
- ・広報・啓発活動について
- ・子どもの読書活動の推進に関することについて（その他）

5. 回収結果

- ・回収41団体

○アンケート調査結果（意見）

高山市子ども読書活動推進計画（第二次）の取り組みに対する意見

1 家庭における子ども読書活動の推進

（1）家庭

①日常生活における読書活動の推進

- ・幼児期における家庭での読み聞かせが、子どもの読書活動の基盤になると思います。親の意識を高め、積極的に推進すべきと思います。
- ・幼児期の子育てをスマホで動画を見せることにゆだねている親が増加していると思います。子どもの脳の発達が最も大切な時期であり、絵本の読み聞かせなどの大切さや効果を、そうした親世代にもっとアピールし啓発していく必要があると思います。
- ・日常生活において、親（大人）も子ども、のんびりと本や絵本に親しむ時間をあえて作っていくことが大切だと思います。（テレビ、スマホ、ゲームをしない日や曜日を作るなど）
- ・図書館での本の紹介や読み聞かせだけではなく、商業施設、公民館などに会場を移し、「まちライブラリー」「ブツブツ交換」「ひと箱古本市」のようなイベントを行うことで、広く読書のきっかけを提供できるのではないのでしょうか。
- ・家庭内で読書する時間を作る工夫が必要だと思います。大人も子どもも一緒に時間を共有することが大切だと思います。（例えば、夕食後の読書時間や子どもが寝る前の10分から30分を読書時間にするなど）
- ・家庭で子どもに本を与え、また、読み聞かせをすることの大切さはよくわかっているはずですが、しかしながら、それぞれの家庭環境などから余裕がない人もいます。
- ・主な取り組みは継続しながら、家庭でも取り組みやすく、また習慣にしやすい具体的な方法を伝えることにより、抵抗が無く受け入れやすいと思います。例えば、親子ともに心が落ち着き、温かい気持ちになれる時間帯に本に親しむ時間を作るなど、一日の生活の中で絵本や本に親しむ時間を作ると絵本や本が身近な存在になります。「本を一冊読んだら寝る」を習慣にすると、入眠儀式にもなり一石二鳥です。
- ・子ども達のご家族など、周りの大人が「読書活動の大切さ」について理解を深めることが必要だと思います。
- ・難しいかもしれませんが、眠りにつく時、本を読んでも見える家庭の子は、本に興味を持ち、本好きになっているお子さんが多いように思います。
- ・子どもが高学年から中学・高校生となった家庭にこそ、本を楽しむ時間

を持ってほしいのですが…中学校の保護者の方々にまずは本をとっていただけるような講座・ワークショップを学校や図書館で開いてほしいです。例えば「絵本のひみつ」「本ができあがるまで」というようなもの。

- 子どもの読書の習慣づけは、すべて親にかかっていると思うので親が読書好きになることが大事ではないかと思います。そして、手の届く所に本があるということも大切ではないかと思います。
- 入園前に親子に園を開放する日があります。そのような時に絵本のよさを知らせていきたいと考えています。ご協力いただけると嬉しいです。
- ライフスタイルも大きく変わり、小さい頃から（保護者さんも含め）「情報端末」があまりにも生活に浸透していると危惧しています。
- 絵本は心の栄養とも言われます。保育園では絵本コーナーで貸し出しコーナーを用意して借りてもらえるよう促しています。いつも絵本を読んでもらえるよう園だよりや入園式などで話しています。家庭では絵本はとても大切だと思います。
- 家事の合間や子どもが寝る前の少しの時間でも読み聞かせをしていただければと思います。
- 子どもと一緒に本に親しみ楽しむことで、家族間のコミュニケーションがとれたりすることがありますが、現状を見ると、少しずつ本への親しみが薄れています。
- 園内の文庫で絵本の貸し出しを行い、親子で楽しんでいただき、読書の紹介をして親しみをもてるようにしています。
- 保護者の読書に対する関心の高さ低さによって各家庭の差は大きいと思います。
- 園内の絵本の貸し出しなど推進に努めています。
- おはなし会などがよく開催され、図書館も見やすくなっていると思います。支所にも分館があり、身近に本とふれあえると思います。もっと図書館を活用したいです。
- 園で週一回絵本を貸し出し、家の人に読んでもらえるようにしています。新しい本もたくさん入れています。
- 保育園では毎週水曜日に絵本を貸し出し読書活動の推進をしています。絵本は想像力を養うばかりではなく、親子の絆も深めてくれます。今後も絵本に親しむ機会を大切にしていきたいと思っています。
- 小さい頃の体験は必ず大人になっても心に残るので、親子での読書体験は是非たくさん行ってほしいと思います。
- 保護者が本や絵本の大切さを感じていないと子どもたちにはなかなか伝わりにくいのではないかと思うので、保護者に絵本の良さを伝える必要

があると思います。

- ・親子のふれあいの時間ももてると良いと思います。
- ・絵本とのあいは大切であり、幼児期は親が子どもを「だっこ」して読んであげることが重要だと思います。
- ・子どもが小さいとき（入学前くらいまで）は、読み聞かせを推進したいです。たくさん読み聞かせをした子は、読書好きになっていると思います。
- ・「木のくにだより」の内容がとても興味深く、楽しく読ませていただいています。おはなし会も開かれていますので参加したいです。
- ・学校で家庭での読書活動の仕組みを作ろうと思っても、様々な家庭環境の児童がいて、難しい面があります。
- ・つついテレビがつきっぱなしの日常で読書が遠ざかりがちなので、読書の時間を決めたり、読んでいる本を話題にするなど、心がけています。親子で一緒に読書をする（読み聞かせをする）時間が生み出せると良いと思います。
- ・学校図書館の本を利用して家庭での読書活動に取り組む時間を少しでも増やし、読書習慣を定着させたいと願っています。
- ・保護者を対象にした読み聞かせ講座、読書会などを家庭教育学級等を利用して実施してはどうかと思います。
- ・学校でも家庭と連携し、家庭での読書活動を推進しています。
- ・読書量が少ないとおっしゃる保護者の方もいらっしゃるが、子も親も十分に本に親しむ時間をとりづらいのだと思います。
- ・学校職員や保護者からの読み聞かせの会を開くことで、どの学年も本を親しむきっかけを提供しています。
- ・インターネットやテレビなど、たくさんの情報がある中で読書をする時間を確保するのは難しいと思います。
- ・中学生は多忙で読書をする時間がなかなかとれないので学校として位置づける必要があると思います。
- ・読んだ本の感想のやりとりが家族間であるとよいと思います。
- ・親が本を読まないで、子が読まないということもあるのではないのでしょうか。本を読んであげたり、一緒の空間で別々に本を読むことがあっても良いと思います。
- ・絵本は高くてなかなか買えないので、図書館を利用できるようなはたらきかけは良いと思います。
- ・中学生は部活動、習い事、家庭学習などでなかなか時間をつくるのが難しいと感じます。その中で、読書活動を推進する良い方法があれば教

えていただきたいです。

- ・幼いうちから読書週間を身に付けさせようという試みは良いと思います。
- ・本を読み聞かせることが大事だと分かっているにもかかわらず日々の忙しさに流されなかなかできないのが現状です。そんな中、こうした活動からもう一度見直せる機会を頂けることはとてもありがたいです。市図書館は子どもたちも楽しめる場所であり、とても良いと思います。

②ブックスタート事業の充実

- ・ブックスタートの時期を4か月や1歳6か月などに限定せず、様々な成長期を捉えて提供していくと良いと思います。(必ずしも新しい本ではなくても良いと思います。)
- ・乳幼児から本に親しむきっかけとなる素晴らしい事業であることから100%の引き換えを達成してほしいと思います。
- ・読み聞かせが毎日の習慣になるような取り組みが必要だと思います。
- ・どの場所で絵本のプレゼントが受けられるのかを明確に表記した方が良いと思いました。
- ・ブックスタート事業は、とても良い取り組みだと思います。
- ・良い本をプレゼントするのはとても良いことだし、市の図書館が行きやすい場所であれば親子での利用が増えるはずです。
- ・絵本の「読み聞かせ」が、赤ちゃんの言葉や心の発達に良いからと焦ったり、迷ったりで、楽しいはずの読み聞かせも「辛くなる」とのお母さん達の声もあります。絵本とおもちゃは、赤ちゃんの一番初めのお友達になるものです。利用された保護者の声を聞くことも大切だと思います。
- ・私自身、ブックスタート事業を知りませんでした。良い取り組みだと思います。絵本の引き換え率も上がっているようなので、引き続き取り組んでいただきたいです。
- ・年1回行われているブックスタートスペシャルには、お母さんだけでなく、お父さんやおばあちゃんも参加されています。家族で楽しめる時間となっていると思いますのでこういう機会をもう少しあってもいいかなと思います。(年2回くらいのスペシャルを!!)
- ・この事業は大変意義のあることだと思います。続けてもらいたいです。
- ・絵本の良さを親子で分かち合える時間を作れているのでしょうか。事業後のアンケートのようなもので統計をとった結果が知りたいです。
- ・乳児も絵本等の読み聞かせは大事だと思うので、絵本を贈られているのは絵本に親しみ、また親子のふれあいになり良いことだと思います。
- ・絵本を通しての関わり、ブックスタートはとても良い事だと思います。

-
- 0歳からの絵本の語りかけは大切だと思います。
- ・親の中でも、ビデオ・DVDなどを利用して子育てをする姿が多くみられる中、親子でふれあうことで、子どもに対しての愛情を強く感じるきっかけになると思います。
 - ・小さいうちから絵本に親しむきっかけがあることはとても良いことだと思います。
 - ・絵本と出会うきっかけになり、続けてほしいと思います。
 - ・ブックスタートを楽しみにしている親さんも多く、親しむきっかけになっていると思います。子どももその絵本がお気に入りになっています。これからも続けて頂きたいです。
 - ・ブックスタートは良いシステムだと思いますが、どんな本が渡っているのか知らずにいます。
 - ・絵本を通して親子の絆を深めるきっかけ作りとなるので今後も継続した方が良いでしょう。
 - ・全員に読み聞かせの習慣がつかなくても、いろいろな場面で良さを見聞きし、本を手にする体験が良いきっかけになると思います。
 - ・自分で絵本を買おうと思わない方もみえるので、ブックスタート事業はとても大切な事業だと思います。また、どのような絵本を与えたら良いのか分からないので、数冊から選べることはありがたいのではないかと思います。定期的に絵本の内容も見直されると幅が広がるのではないかと思います。
 - ・3歳、4歳、5歳、6歳の誕生日にもあると良いです。
 - ・赤ちゃんが本にふれあうきっかけを与えていただきありがとうございます。忙しくてなかなか取りに行けないこともありました。(自分のことです。)
 - ・生まれたときから本に親しむ子は、きっと感性の豊かな子になると思います。こういった事業をこれからもよろしくお願いします。
 - ・小さい頃から読書の啓発活動をしていくことは良いと思います。
 - ・私自身も我が子が幼い時に本をいただきました。4か月、1歳半検診の時というのは良いタイミングで数冊の中から選べるというのも良かったし、選書もすてきだった事を覚えています。親の意識も高まります。続くと良いと思います。
 - ・早くから本に触れることで、本に対して親しみをもち、読書好きになる良いきっかけだと思います。
 - ・幼児の頃から身近に本があるのはとても大切なことだと思います。
 - ・健診の時に合わせて絵本をプレゼントされるのは、絵本とふれあう良いきっかけとなり、良い取り組みだと感じました。また、1歳半の煥章館

での読み聞かせも親子のスキンシップをしながらの時間となったり、図書館へ足を運ぶきっかけとなったりでとても良かったです。

- ・絵本を通してふれあえることになる素晴らしい事業だと思います。
- ・リーフレット、読み聞かせなど、各家庭で行われるためのきっかけづくりとして最適だと思います。
- ・幼い頃から本にふれあうのは大切だと思います。
- ・幼児期の読書体験が心を豊かにするので良いと思います。習慣がない家庭でも本を手取るきっかけになると思います。
- ・小さい頃から絵本を読んでもらうことで、落ち着きや集中力を養うこともでき、とても良い活動だと思います。
- ・絵本を贈ることによって子ども自らが直接本に触れる機会が増えることが良いと思います。
- ・親が子どもに本を選ぶきっかけ作りとして、とても良いと思います。すごく選択に悩んだ記憶があります。気に入らない時もありますが、それも良い経験です。

③その他

- ・幼少期からの「テレビ」「スマートフォン」「ネット」等の視覚経由での吸収を控え、文字による感性の発達を講じるべきだと思います。

2 学校等における子どもの読書活動の推進

(1) 保育園、幼稚園等

① 保育園、幼稚園等における子どもの読書活動の推進

- ・すばらしい読み聞かせによって園児は感動し、読書意欲が更に向上すると思うので、保育士さん等の読み聞かせの技術を高める研修が大切だと思います。
- ・園児は、まだ字を読む力が備わっていないので、絵からの発想を膨らませたり、自らが絵で物語を作ったり、絵本を書いたりといった保育メニューがあっても良いのではないかと思います。
- ・絵本・紙芝居など、保育士だけではなくボランティアや体験学習の学生など、工夫しながら様々な方が読み聞かせを行っています。幼児期において、多くの方と関わる事も大切であり、是非、多くの方が読み聞かせをしていただける機会を増やしてほしいと思います。
- ・多忙な保育士さん等への支援として、読み聞かせボランティアの方の更なる活用を進めてほしいです。
- ・保育園や幼稚園の先生が、紙芝居で上手に楽しく語ってくれるのは、子

どもにとっては大きな楽しみです。最初に興味を持つ一番のきっかけになると思います。

- 現行の活動の中で出来ることは実施されているのではないかと思います。
- 私は託児所で1歳、2歳児の幼児を預かっています。朝の会をする時は毎日、自分の持っていった本を3・4冊読んでいます。毎日の事なので、子どもたちは読み手の方を見て、聞いてくれます。
- 本が古くなり傷んでしまったものは、子どもはあまり手に取りません。予算の関係もあるかとは思いますが、読み継がれた名作こそきれいな状態で園に置いてほしいと思います。アニメ調の絵本でなく本物の絵にこだわった絵本を提供してほしいです。
- 我が子の幼児時代はずっと前でしたが、保育園の先生方は読書については、随分丁寧に取り組んで下さっていたと思います。今の時代スマホやらタブレットやら、なかなか難しいかと思いますが、紙書籍も大事にしてほしいです。
- 紙芝居や絵本の読み聞かせなど、保育士の活動はもちろん、本の貸し出しで親子が絵本にふれあえる機会はなくさない方が良いです。
- 一之宮町の保育園では月に一度、ボランティアによる読み聞かせの時間が設けられていて良いと思います。これからも続けてほしいです。
- 子育てスタッフ研修会に一人でも多くの教員を出してあげたいのですが人員的に難しい。夏休みや冬休みなどの長期休業中に実施してほしいと思います。
- 毎週金曜日に一冊持ち帰り、家族のどなたかに読み聞かせをしてもらうよう勧めています。月曜日には誰に読んでもらったかを確認し、返却しています。保育中では朝の会の前、給食後、約10分間ずつ絵本タイムを設けて落ち着かせる“静”の時間も大切にしていますが、常に“動”の子ども達にも静と動のメリハリは重要かと思っています。
- 現状は、日々の保育の中で絵本の「読み聞かせ」、絵本コーナーの設置（季節の本）、保護者会管理の貸し出し絵本の推進をしています。
- 地域の読み聞かせボランティア「かるがもおはなし隊」さんに、来園してもらっています。（月に一回）
- 色々な方法で絵本の大切さをアピールしています。絵本の貸し出しコーナーでは新刊などをよく見えるようにしています。
- 当園では、各クラスで絵本の読み聞かせや紙芝居を見たり、廊下には絵本コーナーの場所を作っていて子ども達も喜んで絵本を見ています。また、迎えにみえた保護者が子どもに読み聞かせをしています。
- 当園では、園での絵本の貸し出しを行っているため、子ども達にも親に

も読み聞かせが浸透しています。

- 保育室での絵本コーナー、環境の充実、季節ごとの本の入れ替えや昔話、自然、科学など、種類を豊富に置くように心がけていきたいです。遊びの中で手作り絵本なども取り入れ、保育し、本に親しめるように促します。
- 絵本の読み聞かせボランティアの方に来ていただく機会があればと思います。
- 保育の中でも絵本・紙芝居・読み聞かせを大切に取り組み、親しめるようにします。親にも大切さを伝えていきたいと思います。
- 図書コーナーを整備し、貸し出し絵本など、親子で絵本を楽しむ機会、きっかけ作りをし、保育の中では絵本の時間を大切にすることはもちろん、ボランティアによる読み聞かせなどもお願いしています。子どもが喜ぶ絵本をもっとそろえられたらと思います。
- 新しい絵本を購入し蔵書を増やしています。
- ネットが園児の中にも影響を及ぼしていると思います。しかし、本が好きで読み聞かせが好きである子も多く、その環境を園で作ることが大切だと思います。園では月刊絵本を一人ひとりに購入してもらい、保育に活用し、家庭に持ち帰り、週一回は絵本を家に貸し出しています。その中で、親子でふれあうきっかけになってほしいです。
- 地域の方に、月一回「読み聞かせ」に来ていただいているので、子ども達も楽しみにしています。保育士も知らない本に出会えて良かったと思う時があります。
- 保育園では保護者に毎月一冊、月刊絵本を購入していただき、園で活用させていただいています。また、一日の生活の中で絵本や紙芝居の読み聞かせの時間を設け絵本に親しんでいます。想像力を養い、聞く力・集中力を育みたいのです。
- 子どもだけでは習慣づかないが親子や園で読み聞かせの心地良い体験をたくさんすることが本を好きになるためには効果があると思います。
- 園でも機会をとらえて読み聞かせの大切さを保護者に伝え、週一回、園の絵本を貸し出し、家庭で読んでもらえるようにしています。園でも毎日「読み聞かせ」を行い、絵本の大切さを伝えていきます。
- 親子会で絵本の読み聞かせなど、家庭教育の方面での活動も取り入れ、本離れをなくしたい、親しませたいです。
- 好きな絵本を何度も繰り返し読んであげることが宝物になると思います。
- 読み聞かせをたくさんしていただいているおかげで、本が好きな子が多いと思います。

-
- ・幼い時こそ、本物の絵本が身近にある事が大切だと感じます。文章や絵が子どもに媚びたものではないこと、読み聞かせをしてくれる大人がいることが大切な基礎をつくると感じます。
 - ・昔話(日本・世界)をいっぱい読み聞かせてほしいです。昔話を知らない子どもがとても多く感じます。
 - ・文字が読めなくても耳からお話が入ってくる読み聞かせは大切だと思います。
 - ・毎月絵本を持ち帰ってきたり、親の保育参加の際には読み聞かせをしたりすることからも読書を大切にしてみえることが分かります。
 - ・本校では3年生が冬に地元の保育園へ訪問していますが、ゲームが中心で本の読み聞かせは行っていません。
 - ・中学生が手作り絵本を保育園児に読み聞かせするという活動を行っています。
 - ・本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ子どもは多いです。少しずつで良いので毎日読み物にふれる時間があれば良いです。
 - ・様々な機会の中で、本とふれあう機会を設けていることが良いと思います。
 - ・本を借りて読むということが楽しみの一つとして育っていたので、各園の取り組みはとても良かったです。時間が取れない時もありますが、親子で楽しむ時間を作れるようにしたいです。

(2)学校

①学校の体制づくり

- ・朝の10分間を使い、全校一斉の読書時間を設けている学校がありますが、子どもたちに「本を好きになれる？」と聞いても「別に」との返事です。せつかく読書環境が整備されていても、本への興味や楽しみにはつながっていないようです。一方で学校図書館の取り組みは、良く工夫が凝らされています。本がとても好きな子もクラスには数人いると思います。ブックトークだけではなく、その子たちの声で「この本のここが面白い！ここが泣ける！」など、大好きな本の紹介をクラスですることでも本に興味を持つ動機付けになる気がします。
- ・給食時などを利用して、校内放送による全校への読み聞かせの時間をとり実施することも大切だと思います。(低・中・高学年に分けて)
- ・教育委員会及び各学校現場での取り組みを大いに評価します。特に学校図書館の「司書」先生の努力に期待したいです。
- ・小学校でも読み聞かせボランティアの方に定期的に来校していただき、

読み聞かせ活動を行っている学校が相当数あります。そうしたボランティアの方は、自前の絵本を準備してくださっていることも多いです。ボランティア団体の会員は高齢化が進んでいることから、若手ボランティアの発掘、育成が必要です。

- 絵本、本（読書）ばかりではなく、国語の教科書や道徳の本などを使い、うまく表現して読めるかなど「本読み大賞」などの授業があったように思います。楽しさの手法を取り入れた「本を読む」授業があっても良いのではないかと思います。
- 全校の授業などでの「調べ学習」について、司書教諭が集約し、学年に応じた利用計画を立て、司書教諭、図書館指導員が協力して利用指導や支援を行うようにすれば良いと思います。
- 朝読書などを学校が一斉に行うことで、読書に集中し習慣に変わると思います。
- 先生は大変だと思いますが、日々の活動の中で、本の紹介ができていくと良いのではないかと思います。
- 図書館の先生の雰囲気は大切です。それにより、子どもの足が図書館に向くか遠のくかが左右されます。
- 北小学校では朝8時から15分間各教室に入り、図書館から借りてきた大型絵本などを楽しく読んでいます。
- 図書館指導員の立場がどっちつかずだと思います(学校内で)。図書主任との連携はもちろん、校長先生、教頭先生とも話しやすい環境づくりが必要ではないでしょうか。中学校では特に理数系教科の先生とのコミュニケーションがとりにくいです。
- 読み聞かせがあり、図書室のイベントなどで工夫をしていると思います。
- 一之宮町の小学校では、月に一度、ボランティアによる読み聞かせの時間が設けられていて良いと思います。これからも続けてほしいです。
- 学校もいろいろ取り組んでいますし、子どもも自主性があります。
- 発達の段階に応じた読書指導が行われることが良いと思います。
- 図書館指導員や司書教諭など、資格がある方が携わり指導することはより多くの本と出会える機会となるので、体制づくりにおいて必要だと考えます。
- 読む時間を作っていただき、読書を身に付け、楽しませたいです。
- 学級担任と連携し、月に一度、教員による読み聞かせを実施したことで、本に興味を持つ子が増えました。(成果) 各教科で活用できる図書の利用促進が課題です。
- 図書館は、児童にとって行きやすく、楽しい所になっていると思います。

授業で利用している学年もあります。地域ボランティアの方の読み聞かせが年に10回あり、ありがたいです。

- 図書館指導員さんが旬の話題でコーナーを作ってください、大変ありがたいです。毎日来ていただけることもありがたいです。
- 図書館指導員の1日勤務により、時間を見つけて図書館経営について話ができます。ボランティアによる読み聞かせも行っていて、楽しみにしている児童が多いです。
- 図書館指導員も8時から勤務できるようになると良いと思います。(現在10時～16時、朝読書・1限・2限に不在)
- 年一回の図書館主任研修会を図書館指導員と合同で実施することで、学校図書館運営の連携を協議することができて良いと思います。また、図書館指導員が各学校に1名常勤で配置されていて、とてもありがたいです。
- 朝読書の時間の積み重ねは大きいものだろうと感じています。できれば毎日、そんな時間があることが理想だと感じます。
- 学校に図書館指導員を配置していただいているおかげで、図書館運営が円滑にでき、児童の利用がしやすくなっています。
- 図書館主任と図書館指導員で共通理解を図りながら、指導にあたっています。
- 図書館指導員と教職員が連携し、学習の中で積極的に図書館を利用するよう進めています。
- 図書館指導員が全校に配置されたのはとてもありがたいです。
- 3年前から図書館指導員が全校に一人ずつ配置になったことで、児童とのコミュニケーションもとりやすくなり、本をすすめる機会も増加しました。
- 日中忙しいため、図書館指導員さんと話をする時間があまりありません。
- 親子読書などに取り組んでいます。
- 図書館指導員と教員がもっとじっくり話せる時間があると良いと思います。
- 司書教諭と連携し、課題図書や推進や教科とタイアップした読書や調べる学習を通じた活動をしている。
- 様々な教科で活用できると幅が広がりそうな気がします。
- 図書委員会が中心となって、曜日ごとに学級を割り当て、昼休みを割り当てられた学級が全員図書館を利用する取り組みをしている。全員が図書館に足を運ぶことで、貸し出し冊数の増加・長期延滞が減少、図書館の特集などを知ってもらえると思います。

- ・他の業務が多い中で高山市は良く力を入れていると思います。
- ・久々野中は先生が協力的です。
- ・図書館指導員の方があってこそ、図書館の運営がスムーズにできているので今後も各校に1人は配置してほしいです。
- ・図書館指導員の方が毎日来てくださるので大変ありがたいです。また、生徒の委員会活動にも関わっていただけるので、生徒と連携した運営ができありがたいです。
- ・教科の速度に合わせて書架の配置を変えるなど、生徒が本とふれあう機会を増やすことを行っています。
- ・本校では、司書教諭、係教諭、図書館指導員の3人で図書部として学校図書館の活用を進めています。また、各教科の代表と管理職、そして図書部員計17名からなる図書運営委員会を年2回実施し、様々な意見を反映し、学習・情報センターとしての活用を図っています。
- ・毎週きちんと本を借りてきて、読んでいます。家で開くことが少なくはなっていますが、習慣化されているのは素晴らしいと思います。高学年になるとその様子が親からはなかなか見えにくいです。

②学校図書館の整備・充実

- ・新刊紹介の工夫が大切だと思います。
- ・図書館指導員の100%配置は、学校にとっても子ども達にとっても大変役立っています。継続を是非お願いしたいです。
- ・保健室のように図書館が心の癒しの場（時には逃げ場）になっても良いのではないかと思います。
- ・子どもが進んで読みたい本や調べたい本を探し、学習に利用できるよう学校図書館や職員室に図書検索の専用機が必須だと思います。（是非、設置してほしい）
- ・自分が読んだ本で、おすすめしたい本や友達や下級生に読んでほしい本など、子ども同士で紹介し合える環境が必要だと思います。
- ・1年生から6年生まで楽しめ、様々な分野、バランスの取れた学校の図書館でなければならないと思います。
- ・北小学校では階段の上り段の窓に、学校図書がすぐ手の届く所に並べてあります。1階、2階、3階ととても良い考えだと思いました。
- ・最近では調べ学習の充実のために資料的要素の多い書籍の購入が求められているような気がしていますが、子どもにとって想像力・創造力・間接体験の重要性を考えると、物語類、絵本類の充実も必要かと思います。
- ・図書の貸し出しのほか、生徒・児童の学習の場となっています。今後も

多くの知識を得るためにも図書館の必要性を感じます。各々の分野の専門書がもう少しあると良いです。(例えば保育や教育書)

- 郷土に関する図書の充実が課題です。
- 本校には、たくさん数、多くの種類の本があるのでありがたいです。図書委員会主催で図書館祭りを開き、色々な種類の本を読むことを推進しています。
- 一括配分されている地方交付税の「図書館整備費」が市では適正に執行されているのか疑問に思っています。
- 図書購入や除籍を計画的にすすめています。教科での利用をすすめています。委員会の活動として図書館祭りや環境作りに心がけています。
- 今のまま子どものための図書予算をお願いします。また、早急にエアコンの設置をしてください。
- 図書館指導員が創意工夫して、館内整備や子どもが読みたくなるような本の配置やコーナーを充実していただいているので授業に活用しやすいです。
- 毎年児童数に応じた予算をいただき、図書購入のために使わせていただいています。除籍した本は、リサイクル本として学級文庫で使っていますが、どうしても古いもの、傷んだものばかりになるので、そちらも充実できればと考えています。調べる学習コンクールもレプリカを展示しています。
- 読書推進のほか、調べ学習を行う学習センターとしての利用を呼びかけ、それぞれの学年の学習内容に合わせた図書の整備を行いたいです。
- 図書館にコピー機やパソコンなど利用指導に使えるものがあると良いと思います。
- 学習内容、季節、時事に合わせた本の紹介を積極的に進め、必要な図書の購入を全職員が検討、提案しています。
- 学習センターとしての機能を高めるためには、各教科での活用方法を整理しなくてはならないが、なかなか時間的な余裕がないです。
- 毎年、図書購入予算が全校にあるのでとてもありがたいです。児童も新しく入る本を楽しみにしています。授業に使用する本の選書もしやすいです。
- 図書館指導員さんが熱心に学習と関わる特設コーナーを作ってくれていてありがたいです。
- 図書館指導員を中心にバランスのとれた図書購入、適正な除籍がなされています。
- おすすめ本や飾りつけなど、見栄えがよくジャンルを見つけやすいよう

に分類や各学年に分けてカテゴリイズをしている。

- とても良いと思います。「調べる学習」について更に探究していければと思います。
- 年に4回の選書委員会にて資料を購入しています。1・2回目に予算をほとんど使用しているため、4回目(冬期)は新規購入資料が無いです。既存の本を使用して、目新しい書架づくりをしていかなければと思います。
- 図書館の備品は後にされることが多いです。(図書館指導員さんから)
- 冬のカメムシ大量発生で、図書を汚すので頭を悩ませています。
- 選書が一番大変な作業ですが、毎年丁寧に選んでいただいています。また、コーナーの設置などで、子どもたちと本がつながる環境づくりをしていただけてありがたいです。除籍が難しいです。
- 本が大きくなっている中で、本棚が小さく、変えていかなければならないと感じています。本を購入する予算が多いことは大変ありがたいです。
- 図書館のネットワークによって本校図書館に無い本も利用できるシステムとなっており、ありがたいです。
- 資料の選定は、図書運営委員のメンバーからの意見を取り入れ、偏りのない調和のとれた蔵書構成となるよう心がけています。また、読書に親しみ、読書から学ぶ力を身に付けられるように、毎年、各クラスにオリエンテーションを実施し、ブックトークやおすすめ本の紹介を行っています。
- 親が思う以上に様々な本が置かれていることがよく分かります。それをきっかけに購入することもしばしばあります。課題図書について長期休暇前にお便りがあるとうれしいです。

③特別な支援の必要がある子どもの読書活動の推進

- 落ち着いて利用できる環境づくりはもちろん、読みやすくするツール(リーディングトラッカー※1 など) やオーディオブック※2、LLブック※3などを気軽に利用できるよう整備すると良いと思います。
- ※1 リーディングトラッカー：読みたい行に集中して読めるよう、両隣の行の文字を隠して読み進める読書補助器具
- ※2 オーディオブック：書籍を朗読したものを録音した音声コンテンツの総称
- ※3 LLブック：知的障がいなどのある人や日本語を母語としていない人などに、やさしくて分かりやすく書かれている本
- 読み聞かせは、どんな障がいの子にも必要です。
- 障がいも様々です。担当の先生と図書館の先生の連携で、この子は「こんな本が良さそうだ」とか、「このタイプの本を好むから」とか、連携し

て対応することが望ましいと思います。

- ・私達も勉強しなければ難しいです。託児所にも一人、発達障がいのお子さんがみえますが、興味のある本はとても熱心に聞いてくれます。
- ・個々の発達状況が違う子ども達に薦める本の選択は図書館指導員だけではできません。校内でのコミュニケーション、読書を通して求めることを共通認識していかなければと思います。落ち着ける場に落ち着ける本、探求できる本を設置することが必要かと思います。
- ・ボランティアグループの会を開くと良いのでは？ひとつのグループが、学校などに伺って読み聞かせをするのではなく、いろいろなタイプのおはなし会を開いて、絵本やおはなしを身近に感じてもらいたいです。図書館で招くのも良いと思います。
- ・支援が必要な子の発達により差があると思いますが、読書活動が無理な子もいると思います。
- ・特別支援学級の学年に合った本や落ち着いた静かな環境づくりが必要だと思います。
- ・興味の持てる分野の本を探す時間が作れると良いと思います。
- ・図書館指導員が支援の必要な子どもの本の好みを知り、興味のある本を紹介することで読書量が増えました。
- ・特別支援学級独自で図書館を利用することが増えました。
- ・個に応じた本を紹介していきたいです。
- ・週に一度は必ず図書館を利用するようになっていきます。読み聞かせの時間を大切にしていきたいです。
- ・特別支援学級の子ども達が図書館をゆっくり使用できる時間の確保について、学校事情により難しい面もあります。
- ・本校の特別支援学級の児童は、図書館の利用回数が多く、毎日のように来館してくれます。昨年度は、全校の中で貸出冊数の2トップが支援学級の2名でした。他の児童も一目置き、本人たちも誇らしそうでした。図書館内に落ち着ける場所があるのも良いと思います。
- ・すべての子どもが発達段階や障がいに応じた読書活動ができるような環境づくりを行いたいと思います。
- ・視覚に訴える本、立体的な本、遊べる本など、興味を引きやすい本の選択をしていきたいと思います。
- ・個の興味関心に沿った選書が必要だと思います。
- ・本校においても静かな環境がつけられており、子ども達にとって良い空間がつけられています。
- ・一人でゆっくり本を選びたい子、大人と一緒に選びたい子と個を大切に

して声かけをするようにしています。落ち着いた図書館を目指しています。

- 読書だけではなく、授業での調べ学習などで読書が身近になっています。特別な支援が必要な子、不登校気味の生徒にとっては、図書館が居場所になっています。図書館指導員の先生には、心の思いをつぶやく子が何人かいます。
- 授業で使いやすい絵本がもっとあると良いと思います。
- 時間の確保など配慮している点がとても良いと思います。読み聞かせボランティアなどを募り交流を深められると良いと思います。
- 教育課程に寄与できる資料だけではなく、生徒一人ひとりの情報ニーズに応えることができるように多種多様な図書を整備しています。また、ユニバーサル・デザインに考慮しながら、リラックスできる場と学習に集中できる場が分かれるよう館内配慮と工夫をし、誰もが落ち着く環境づくりを目指しています。
- 落ち着いた静かな環境作りというのはとても大切だと思います。
- 自分から本を読もうとする機会が少ない子ども達が多いため、積極的に絵本の読み聞かせを行っています。絵本の読み聞かせにふれることは、物の名前や言葉を知る学習につながります。年6回ボランティアによる絵本の読み聞かせ「おはなしの会」を行っています。

④学校図書館と公立図書館との連携

- 高山市図書館と県図書館とのネットワーク整備、市図書館と分館、そして、学校図書館との連携が大変充実してきたことは喜ばしいです。
- 学校図書館に無いものや有るもの、公立図書館に無いものや有るものの交換・交流・出前ブックストアのようなものがあっても面白いのではないかと思います。
- 図書館分館でも職場体験の受け入れが必要だと思います。
- 学校と図書館を巡回する物流便があると、支所地域や小規模校でも気軽に借りることができるようになり、資料数の格差を減らせるのではないかと思います。
- 学校図書館が、保護者や地域の方にも開放する日があると良いと思います。貸し出しが無理でも、子ども達が「どんな本を読んでいるのか」、「どんな本を読んでもほしいのか」、大人が考えるきっかけとなればと思います。
- 市図書館と学校図書館の連携はできていると思いますが、今の時代、蔵書リストを調べることはすぐにできるため、学校の図書館に無い本を市

の図書館には有るといような情報を子ども達に教えてあげることができるのではないかと思います。

- 学校の授業資料として何十冊も借りる必要がある場合がありますが、その何十冊もの本を図書館から学校へ運ぶ手段が、「図書館指導員が時間外に個人の車を使い運ぶ」しかありません。学校便を使うことはできないでしょうか？
- 学校の野外活動の中で図書館へ行ったりできるのは良いと思います。
- 予算や書籍の数にも限度があるので、学校図書館と公立図書館と連携を取り合い活用していくことは大切なことであると思います。
- 学習でも公立図書館を利用したり、利用したことを学校全体で広めたりするなど、より連携を図っていきたいと思います。
- 授業で使用したい本を公立図書館から借りたことがあり、沢山の本で学習できたので、ありがたかったです。これからもお願いしたいです。
- 授業との連携でたくさん資料が必要なとき、すぐに公立図書館から本を借りられるので助かっています。これからもよろしくお願いします。
- 手続きをすればすぐに公立図書館から本を借りることができるのでありがたいです。公立図書館で本を借りるようお願いすると他校と重なり借りられないことがあるので残念です。
- 学校図書館指導員が見学に行った白山市立図書館の「白山市学校図書館支援センター」のような部署を作ってください。
- 図書館指導員が学習で必要な本を公立図書館へ貸し出し手続きをする体制が整っています。子ども達が調べ学習を意欲的に行うことができます。
- 学校図書館だけでカバーできない部分は煥章館からお借りする事もあり助かっておりますが、借りに行くのはどうしても学校の勤務が終わってからの時間になるので、届けていただく方法があるとありがたいと感じます。
- 市や地域の公立図書館の呼びかけ、より多くの本と出会える機会の提供をしたいと思います。
- 公立図書館から、学校図書館にたくさん貸し出してくださるのでありがたいです。
- 学校図書館に無い本や、数を揃えたい本がある場合、すぐに公立図書館に問い合わせ、準備していただけるので、ありがたいです。
- ニーズに合わせて書籍を準備できるのはありがたい環境だと思います。
- 本校は学校の近くに分館があるので業務の空いている時間に受け取りができます。とても便利でありがたいです。遠い分館の本も取り寄せられるのがうれしいが、時間がかかり間に合わないこともあります。

- ・欲しいものが分かっているならば、連携して取り寄せられてありがたいです。
- ・図書館指導員に相談すると、ニーズに合った書籍をすぐに紹介していただくことができ、ありがたいです。
- ・学校図書館では調べるのに不足するため、市立図書館を活用してさらに調べる幅を増やしていきたいと思います。
- ・自校にない資料でも公立図書館を利用して資料を借りられるので大変助かっています。
- ・移動図書館のシステムで。本の購入にあてる費用を削減しつつ、多くの子どもに読みたい本がいき渡る環境が作れると思います。
- ・今もやってもらっていますが、本校の図書館に無い場合は、市図書館からも借りることができ、良いことだと思います。
- ・図書館だけでは、まかなえない本をお借りできてありがたいです。
- ・学習での関連図書など、学級人数分を借りることができると、大変ありがたいです。
- ・貸し出しネットワークが確立していることが良いと思います。
- ・調べ学習の際、本校の資料で足りない場合は、高山市図書館の団体貸出を利用しています。(平成30年度、54冊利用)
- ・市図書館にも満足していますが、国立、県となっていくともっと専門的な本がそろえられているようなイメージがします。それらを活用してみたいと思えるような環境づくりを期待します。

3 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 児童館等

① 児童館等、地域の公共施設における子どもの読書活動の推進

- ・読み聞かせの本の紹介、ワークショップやゲームなどを楽しみながら本に出会える場の環境整備が必要だと思います。
- ・子どもが集まる所では、読書ができる環境であってほしいと思います。
- ・子どもが訪れる様々な場所に、常に本が置いてあり、手に取って読める環境が大切なことです。
- ・現行の活動の中で、出来ることは実施されているのではないかと思います。
- ・清見の児童館に3時間程行っています。必ず遊びに来た子どもに本を読んでやりますが、部屋の中に少しだけ絵本、紙芝居が置いてありますが、とても良い本、紙芝居ばかりで修復しては読んでやります。
- ・各地域のまちづくり協議会・子ども会とリンクした読み聞かせ会・おはなし会・読書会があっても良いかと思っています。(例えば、アウトドア体験

-
- 事業の時には動物や自然をテーマにした絵本・読み聞かせなど)
- もっと読み聞かせボランティアを活用してほしいです。
 - つどいの広場など、親子で過ごすスペースに絵本を常備させ、手軽に手に取れる環境を作ると良いのではないかと思います。
 - 児童館そのものの利用が減少しているようです。利用者を増やす取り組みが必要だと感じますが、具体的には浮かびません。
 - 市の図書館では、絵本の読み聞かせなどをしてみえるので参加者が多いと良いと思います。
 - 地域ごとに読書活動推進の差があると思います。
 - 以前、トラックに絵本をたくさん持ってきてくださり、園に訪問、お話キャラバン（講談社）という企画でした。子ども達は喜んで、トラックの中の絵本を読んでいた。このような企画で園訪問をしてみたらどうでしょうか？
 - 図書コーナーがある事が望ましいと思います。
 - 児童館に親、子それぞれに向けた本がたくさんあり、借りることもできるのでありがたいです。
 - 支所地域では交通手段が無くて行けないです。巡回図書館などの活用はできないものでしょうか。
 - 何曜日の何時は読み聞かせの時間のように決まった活動として周知してあれば、それを楽しみにする子どもが増えるのではと思います。児童館へ通う年齢であれば、まだまだ読んでもらいたい年頃です。すでにやってみえる事かもしれませんが、喜ぶと思います。
 - 児童館が行っている読書推進活動にどのようなものがあるのか情報提供をしてもらえると、子ども達に利用の呼びかけができると思います。
 - 読み聞かせ会、ブックトークなどをどんどん進めて行ってほしいです。赤ちゃんを連れた母親が安心して本を読める場がほしいです。
 - 児童も読める本にしるしがつけてあるなど、利用しやすいよう工夫していただいています。（上宝分館）
 - 栃尾地域にあまりないため利用できません。
 - 地域の読み聞かせボランティアの存在がありがたいです。
 - 読み聞かせは良いと思っていて、ぜひ学校にも出張読み聞かせに来てほしいです。
 - 年齢に応じた絵本のさらなる拡充を期待しています。

(2) 市図書館

① 資料の充実

- ・郷土資料、高山市に関する本など、大切な資料として残してほしいです。
- ・膨大な数の書籍が出回る中で、本を選ぶことは大変なことです。バランスの取れた資料収集の感覚を磨いていただきたいと思います。
- ・市図書館の運営については、とても工夫され、利用しやすいと思っておりますが、利用者の促進に力を入れていくと、もっと図書館の魅力に気づいていけると思います。「図書館だより、木のくにだより」など、市民向けの情報が詳しく掲載されており分かりやすいです。
- ・録音・点字図書、大活字体も多く所蔵しているということです。今後もできる限り資料の充実をお願いします。
- ・YA文学※1の作品がライトノベルに集中しているように思います。質の高いYA文学※1は世界に多くあるので、それらを紹介するコーナーもあって良いかと思えます。

※1 YA文学：若い大人（ヤングアダルト：主に13歳から19歳までの年代）向けに書かれた本

- ・新しい本が入った時などにその資料が届きます。参考にしています。
- ・昔から子どもに親しまれている本や新刊など、バランス良く購入されると良いと思います。
- ・新しいものも入れていただいていると思いますが、さらに充実していくようお願いします。
- ・市の図書館はいつも整備されていて、本に親しみながら色々な情報を得る事ができる大切な場所になっています。
- ・本だけでなくDVDなどもあり、また、夏休みなど、その時期・季節に役立つ資料があつて、ありがたく利用させていただいています。
- ・学校の資料が足りない時に、司書の先生を通じて貸し出していただき、ありがたいと思います。
- ・学校の学習内容に合わせた選書をこれからも進めてほしいです。
- ・昔話の本を多く揃えてほしいです。同じ話でも複数の展開があるので比べて読むことで、興味が広がると思います。
- ・大きな活字本、朗読テープなど、誰もが本に親しめる資料を充実させてほしいです。
- ・授業に活用できる資料が揃っていて良いと思います。お借りしたい資料が貸出禁止になっていることが多く、残念に思う時があります。
- ・高山市の図書館は充実していると思います。

-
- ・郷土資料をはじめ、より幅広い本は学校図書館に置ききれないので、多く置いてほしいです。
 - ・様々なジャンルの本が充実しており、ありがたいです。

②本との出会いの提供

- ・子ども達が図書館の役割をしっかりと理解するため、図書館の見学会を行い、読書活動の意欲づけをしてほしいと思います。
- ・図書館分館でも、ワークショップやイベントを行い、ビブリオバトル※1などを実施したらどうかと思います。
※1 ビブリオバトル：面白いと思う本の魅力を紹介し合い、「読みたくなった」と思う人の投票数で勝敗を決める「知的書評合戦」
- ・幼少期に、より多くの出会いの機会を作ってほしいです。
- ・図書館見学はとても良いことだと思います。図書館に足を運んでもらえるきっかけ作りになると思います。
- ・積極的に機会を作っていると思います。
- ・病院での待合室で絵本を見るだけでも、機会を作れると良いと思います。
- ・映像化された作品はなじみがあるので、その原作者を招いてはどうかと思います。次の読書、本との出会いになるのではないのでしょうか？
- ・中高生からの良かった本の紹介が市図書館で年に何回かありますが、子どもにとっても大人にとっても良いチャンスだと思います。
- ・小さな子ども達が読み聞かせ会の後に気に入った本を何度も見ている姿があります。お気に入りの絵本を書き留めておくノートのプレゼントなど、親が子どもの読書の入り口のために記録できる何かがあると良いと思います。
- ・絵本の貸し出しや年長児の図書館見学を利用させていただいています。その後に継続して利用してもらえる方法を考えていきたいと感じます。
- ・図書館が近距離なので、園児が訪問し楽しませてもらっています。
- ・絵本はやはり良い本だと知れば、見て読んであげられるので、本の紹介は保育園でも大事にしています。
- ・いろいろ工夫されてみえますが、皆さんには浸透しにくいかと思います。
- ・図書館で借りた本のおすすめ、特に幼児期に読むと良い本、人気の本、また読んだ親の感想など、知らせていったらどうでしょうか？
- ・ALTによるおはなし会や外国語絵本展など、普段あまりふれられないことが経験できることが良いと思います。
- ・保護者懇談などを利用した本の紹介、図書館のピーアールなどを積極的にしたらどうかと思います。

- ・4か月児及び6か月児に対するブックスタートは、本の大切さを意識させる良いきっかけだと考えます。
- ・まず図書館に足を運ばないことには本と出会えないので、図書館で楽しいイベントが増えれば、それをきっかけに本に興味を持つのではないかと思います。
- ・身近な場所に絵本があり、大人と一緒に読む、読んでもらう時間があることが大切だと思います。
- ・いろいろな機会を作っていただいておりますが、知らないまま過ぎていってしまう人も多く残念です。もっと多くの人に知っていただきたいと思っております。
- ・図書館に行くたび、本に親しむためのいろんなイベントなどが仕組みられており、興味があるものに参加させてもらっております。
- ・移動図書館があると、高齢の方で図書館まで足を運ばなくても、お金をかけずに読書が楽しめるのと思っております。
- ・公立の図書館で行われる子ども向けのイベントがあれば、学校で紹介したいです。学校への情報提供をお願いします。
- ・図書館見学を積極的に受け入れて下さるので、子どもにはとてもいい学習機会になっています。
- ・本を使いながらの子育て講座、幼児対象の外国語絵本の読み聞かせなど、どんどん行ってほしいです。
- ・図書館に足を運ぶきっかけづくりをしてくださっていると思っております。それでも運んでもらえない人にどう働きかけるかが難しいと思っております。
- ・分館でも読み聞かせをよく行っていただいていると思っております。
- ・栃尾・奥飛騨温泉郷地区は近くに公立図書館が無いため、利用することが困難で残念です。
- ・中高生向けのYAコーナーが良いと思っております。
- ・高山図書館と地域の分館でイベントに差があると思っております。
- ・煥章館の企画を支所で巡回展みたいにはできないでしょうか？
- ・ブックトークをやってみたいが、やり方に困っています。やり方の案内などあるとうれしいです。
- ・学校に来てくださってブックトークなどの実演なども可能ですか？
- ・趣向を凝らした本との出会いを提供していただきありがたいです。

③障がいのある子どもの読書活動への支援

- ・「読書バリアフリー法」※1が成立（R1, 6.21）、LLブックや読み上げ機、拡大機など、様々な読書支援ツールによる障がいのある子どもの読

書環境整備が必要だと思います。

※1 「読書バリアフリー法」：視覚障がいや発達障がい、上肢の障がいなどのある人の読書環境を整える法律

- 子どもに合わせた環境整備が必要だと思います。
- 障がいに合わせて担当する方との連携が大切だと思います。
- これからも、きめ細かな対応をお願いします。
- 図書館内で障がいのある子ども達が、本を読むのは集中も含め難しいと思います。ゆっくり親しめるような小さな部屋の使用ができると良いと思います。
- 気持ちだけはあるものの、どのように支援すれば良いのか分からないので、素人や限られた時間しかない人でも何か出来ることがあるか情報があると良いと思います。
- 読み聞かせボランティアを活用し、いろんな絵本やおはなしにふれたり、パネルシアターやペープサートなどで楽しんでもらえると良いと思います。
- ボランティアの方の人数が足りているのかなど、活動を手助けできれば良いと思います。
- 我が園にも登園しているので、絵本を見せてあげています。スキンシップです。大いにやってあげたいと思っています。
- 特別な支援が必要な子どもと同じ意見です。視覚障がいがある子どもにとっては、点字などの書物が豊富にあると良いと思います。
- 広い空間や騒がしい中では気が散り興味を持てないかと思うので、個室のような所があれば、集中して見ることはできるのではないかと思います。
- 興味もてる本との出会いの場、時間と場所の確保が必要だと思います。
- 障がいのある子ども達が興味をもって本を選べるような本の紹介や本の所在が分かりやすい掲示をお願いしたいです。
- 障がいのある子どものニーズに合わせた本の選書をこれからも行ってほしいと思います。
- 障がいのある子どもを連れた親が周りに気兼ねなく本を読んだりできるよう、区切られた空間を作るなどしてはどうかと思います。(すでにあるかもしれませんが)
- 点字の絵本や指で触れる絵本が揃っていて良いと思います。
- 様々な手段でふれあうきっかけを作っていることが良いと思います。

④在住外国人の子どもの読書活動への支援

- ・在住外国人の子どもは、今後さらに増えると思います。外国語の利用案内の作成は急務です。
- ・対象になる方がどの位いるのか分かりませんが、日本語教育などと合わせ、将来を見据えた対応が必要だと考えます。
- ・館内には英語で書かれた本のコーナーがありますが、外国人の子ども達が手にとっているのをあまり見かけません。字が(日本語)読めない子ども達にこそ、読んで聞いてもらえる機会が必要だと思います。
- ・気持ちだけはあるものの、どのように支援すれば良いのか分からないので、素人や限られた時間しかない人でも何か出来ることがあるかの情報があると良いと思います。
- ・日本語を覚えるために絵本はとても良いと思います。
- ・今の状態でも十分だと思います。
- ・外国語(英語、仏語、独語、ロシア語など)ができる専門職のスタッフが必要ではないかと思います。
- ・外国人の子どもも増加していくことが予想されるので、色々な国の本が必要になってくるのではないかと思います。翻訳された日本の絵本を外国の方々に親しんでもらえると良いと考えます。
- ・日本語教育と合わせた教室をやってほしいです。(絵本紹介を含め、イベントでなく継続して)元先生だった方など、ボランティアでお願いできないでしょうか。
- ・これからも外国語の本や障がいに合わせて本を整備してほしいです。
- ・外国語絵本(多言語)の充実が必要だと考えます。
- ・様々な教科で活用できると幅が広がりそうな気がします。
- ・外国の本が多くあることで、国際社会に生きる子ども達には良い刺激となると思います。
- ・外国語表記の案内などを行っていることが良いと思います。

⑤ボランティア活動等への支援

- ・読み聞かせや朗読会のボランティアに関わらせて頂いていますが、参加者が少ないことも多いことからPRが必要だと思います。
- ・ボランティアや協力したい方は多くいると思います。関わり方や協力の仕方が分からないのではないかと思います。
- ・ボランティア活動団体の支援は必要だと考えます。
- ・ボランティアグループの皆様が活発に活動されており、ありがたいこと

です。連携もうまくいっているように感じます。

- 折り紙など、子ども達に教える時、全部材料代を自費でまかなくなっていますので負担を感じています。
- 駐車券の配慮をしていただけるのはありがたいです。ボランティア団体同士の交流は年に1回の会議だけなので、通りいっぺんの顔合せに終わっています。図書館のおはなし会スペシャルに複数の団体で取り組めば、各団体の交流のみならず、それぞれのスキルアップの場になると思います。
- 充分支援していただいていると思います。図書館職員とも言いたいことを言い合える信頼関係があると思っています。
- 夏休み期間中なら教員が手伝えることもあるのではないかと思います。
- 園に来てくださり、ありがたいです。
- 読み聞かせの会が各地域で行われていますが、ボランティアの方々の活動を今後も進めていくことは大切だと思います。
- 読み聞かせなどのイベントがあり、子育て中の親子は特にうれしいと思います。
- 学校で利用できる読み聞かせボランティアについての情報があれば、情報提供してほしいです。
- 読み聞かせボランティア、赤ちゃんや小さい子どもを連れてお母さんへのサポートボランティアを充実させてほしいです。
- 子ども達の視野を広げ、感受性を豊かにすることにもつながると思うので、とても良いと思います。
- 子どもの読書活動を推進するボランティアはあまり想像できません。ぜひ活動内容を広く伝えてほしいと思います。
- 幼保小中とボランティアの方のふれあう機会を増やしていくことが大切だと思います。

⑥職員(公立図書館・学校図書館)の資質向上

- 本を借りる時、職員の方の親切な対応で、更に読書意欲が高揚すると思います。更なる資質向上に励んでもらいたいと思います。
- 知識や技術の向上は当然ですが、人となり(接する態度)によって、図書館が立ち寄りやすい身近な場所になるのか等、影響があると思います。
- 研修など、無理のないところで実施していただければと思います。
- 皆さんが勉強され専門的知識をお持ちだとは思いますが、それを図書館利用者にもフィードバックしていただけるとうれしいです。「図書館職員〇〇さんの〇〇講座」など、開いてくださると興味深々ですが…。

- ・市図書館職員は良くやっているとは思いますが、人数がぎりぎりです。色々な研修等、思うにまかせないのではないのでしょうか。
- ・一部の図書館スタッフは事務的な気がします。
- ・特にありませんが、幼稚園にも来ていただき、教員や保護者、子ども達に色々な教えていただける機会があると職員の方々の資質向上にもつながるのでは…と思います。
- ・研修などでより良い資質向上を図っていただきたいと思います。
- ・高山の図書館の資質向上のためにも研修会には多く出ていただければと思います。
- ・学校図書館指導員に月に一回程度、研修を受けさせて頂いています。毎回とても勉強になり、日々の業務の参考にさせて頂く事も多いです。
- ・気軽にレファレンスを頼める雰囲気を作ってほしいです。(具体的には思い浮かびませんが)
- ・丁寧に対応して下さっていると思います。
- ・研修などを通して本の選書など、資質向上を図っています。
- ・いつも丁寧な対応でありがたいです。
- ・図書館指導員の方が、生徒と関わりながら取り組んでくださるので本当にありがたいです。
- ・丁寧な対応を心がけてくださり、ありがたいです。
- ・館種や校種を超えた情報交換の場があると、お互いの情報を活かして更なる向上を図ることができるのではないかと思います。

⑦その他

- ・教諭・保育士OBによる、読み聞かせボランティアや図書館及び分館の現在の活動に大いに感謝しています。
- ・今回のアンケートに回答するまで知りませんでした。市図書館について高い評価を得られていることを知りました。喜ばしいことです。

(3) 市民活動団体等

①市民活動団体等の読書推進活動への支援

- ・読み聞かせボランティア団体などへの積極的な支援を今後も期待しています。
- ・市民活動団体の活動や成果を、もっと市民に広報紙などで周知する必要があると思います。
- ・連携した活動が不可避になってくると思います。支援の申し出があれば積極的に対応していただければと思います。

- ・読み聞かせ・おはなし会・語り・朗読・子ども劇等で活動している団体は各地域にありますが、それぞれ構成員の高齢化が悩みです。若手募集の支援の場を皆で考えていかななくてはと思います。
- ・読み聞かせに来ていただけることを知りませんでした。詳しく教えていただけたらと思います。
- ・私の息子は高山の子ども達を幸せに…と願って子どものイベントを今まで5～6年間以上やってきました。屋台をダンボールで作ったり、ダンボールで絵を描いたり、Tシャツをデザインしたりなど（ワークショップほか）です。その中で夢として電車の絵本屋さんをやりたいという夢があるそうです。その夢がかなえられるよう私も協力したいと思っています。
- ・いろいろ活動されてみえると思いますが、私たちのところまで情報が入ってこない部分もあると思います。
- ・保育園でも読み聞かせボランティアの方に来ていただく機会があればと思います。
- ・勉強不足であり知りませんでした。
- ・夏休みなどに企画される「お話し会スペシャル」など、足を運ぶ良い機会となっているのでどんどん活動していただきたいと思います。
- ・本校は、年に3回、読み語りの会を行い、市内の読み語りサークルの皆さんにお越しいただいています。すてきな本との出会い、飛驒の昔話との出会いがあって、本当にありがたいです。
- ・学校で利用できるボランティア団体についての情報があれば、学校に情報提供してほしいです。
- ・小学校への読み聞かせボランティアが、すべての小学校対象に行ってもらえるとうれしいです。
- ・絵本展や絵本作家によるワークショップをどんどん行ってほしいです。
- ・読み聞かせの会を学校で実施する際には、児童の学年に応じて選書してくださるなど、たいへんありがたいです。
- ・絵本展など、各学校に出張図書としてまわってくれると読みやすいです。

4 新たな読書環境への対応

- ・電子書籍は便利な面もありますが、子どもの成長においては紙書籍で読むことが非常に大切です。便利だけでは子どもの成長に繋がらないと思います。
- ・紙ベースでの読書環境の充実は常に必要になると思いますが、始まりはやはり親子での本を前にした読み聞かせであり、ここでの出会いが本好

- きになります。必要に応じて電子媒体等に進んでいくべきだと思います。
- ・施策に記載されている通りだと思います。効果的に推進するための情報収集と検討が大切です。
 - ・端末の使用方法についても学ぶ機会が必要だと思います。興味を引くための新しい環境と捉え、うまく活用できれば良いと考えます。
 - ・今はコミックできえもスマホで見られる時代です。紙をめくる面白さ、ゆとりを作る努力を大人がしなくてはなりません。まず大人(親)がノースマホデーを作る必要があるのではないかと思います。
 - ・テレビやスマホ、ゲームなどで読書離れが進んでいることが心配です。保護者がもう少し読書の機会を作らないといけないと思います。
 - ・園の教員も保護者も電子書籍の活用についての知識がほとんどありません。機会があったら学びたいと思います。
 - ・電子書籍等は便利ではありますが、紙書籍だからこそ親子で楽しめたり、「本物」の良さを大事にしたいです。「生の文化」として大切にしたいと思います。
 - ・個人的には、電子書籍より紙書籍で本にふれあう環境を大切にしたいと思います。
 - ・校内に図書館以外にも本とふれあえるスペースがあると良いと思います。
 - ・電子書籍についての講演会や、活用講座などを行い、新しい読書の形を広めて行ってほしいです。
 - ・学校で電子書籍を扱うことはありませんが、紙書籍と電子書籍をどう使い分けていくと良いのか、考えていかなければならないと思います。
 - ・学習情報センターとしての図書館を目指す必要があると思います。そのためにW i - F i の導入が必要だと思います。
 - ・インターネットと本のつきあい方のルールを教えていかなければいけないと思います。
 - ・できる限り、紙書籍の本と触れ合う機会を多くしていただけるとありがたいです。
 - ・県立高校でも I C T 教育が取り入れられ、更にインターネットや電子書籍の普及が進んでいくと思われま。今後更に生徒の I C T 環境の現状把握に努め、その上で紙媒体、電子書籍に関わらず、より良い方法で必要な情報を提供していくことができるよう、研究していくことが重要だと思います。
 - ・紙書籍があたり前に育った年代と現代の子ども達は感覚も違うということがあります。しかし、電子書籍にも慣れ親しんでおかなければならないという子ども達の状況も考えなければなりません。

5 広報・啓発活動

- ・子どもの読書活動を進めるためには、親や周りの大人が一緒になって読書をするとうれしいということ、伝えてやらなければならないと思います。
- ・親子で同じ本を読み、捉え方や感想などの違いを発表する場があっても良いのではないかと思います。
- ・市図書館の広報活動がもっとあっても良いと思います。
- ・家庭内での読書量など、結果が見えないところもあるかと思いますが、伝える努力惜しまず、実施していただきたいと思います。
- ・子ども読書の日(4/23～)は一般にはあまり認識されていません。学校できえもその日ありきで一応計画した行事・事業をやるという状況は本末転倒のような気がします。なぜ4/23があるのか、根本の広報・啓発活動をお願いします。
- ・「読書啓発ポスター」募集やビブリオバトル、ポップなどの掲示…なんでも良いので、おもしろそうなことに取り組む姿勢があると良いと思います。
- ・普及・啓発に協力できることがあったら行っていきたいと考えています。
- ・図書館だよりなどで新刊書を知らせていただけるので、今後もそういった情報を提供していただきたいと思います。
- ・「調べる学習コンクール」などの作品が市図書館に展示してあることや、参考になる本やアドバイスしてもらえたいことを知らない子どもが多いので、学校に来ていただけたら良いかと思っています。
- ・facebook、ツイッターの高山市図書館のアカウントがあることが認知されていません。
- ・「子ども読書の日」は知っていましたが、「文字・活字文化の日」は知りませんでした。是非広く伝えてほしいと思います。
- ・様々な機会を捉えて啓発していただいていることがありがたいです。

6 その他

○子どもの読書活動の推進に関することについて、日頃感じていることなどがあれば記入

- ・良い本との出会いによって、子どもは一生本好き、読書好きになると思います。テレビやスマートフォンに熱中する今の子どもには、本に親しむこと、本のすばらしさに出会うことが本当に大切になってきていると思います。図書館に関わっている先生方や職員の方々の努力を改めて求められているように思いました。一読書人として、今後も一冊でも多くの本と接したいと思

いました。

- ・従来の課題や問題点は今後も引き続きテーマになりうると思いますが、実際に「子ども」の能力が低下しているとは思いません。むしろ全体評価に対する無関心を懸念します。
- ・パソコン、インターネット等の普及により、子ども達の活字離れが進んでいます。特にインターネット等の動画、オンラインゲームにはまってしまう子ども達が増加していることが危惧されます。大切な情緒を育てなければならない幼少期に過激な映像や殺戮や暴力にあふれたオンラインゲームにひたってしまう子ども達の将来が危ぶまれます。そんな時代だからこそ、良質な書籍にふれる機会を多く提供するとともに、若い保護者を対象とした意識啓発に力を注がなければならない時代だと考えています。
- ・子どもの読書活動推進のための「具体的施策」「主な取り組み」等、現状の課題を踏まえ、将来展望に立って的確で良いと思います。実践を重ねながら厚みを増していくことが必要だと思います。
- ・「本離れ」が進む中、成果をあげていくのは大変ですが、読書活動推進の土台となることについて心配していることは下記のとおりです。

(1) 支所地域の図書館分館について

特に久々野地域の図書館分館は、非常に利用率が低いことを懸念します。

その理由として考えられるのは、

- ①分館は、支所機能を備えた複合施設と離れた場所にあり、地域住民の立ち寄りが少ないことです。
 - ②合併後、支所の大改修が念願でしたが、ようやく素晴らしい複合施設ができあがりましたが、図書館が取り残されてしまったことです。
住民の利用がアップする図書館機能を備えた施設の改修が急務だと思います。
- ・住民利用を待つ「待ち」の姿勢であるような気がします。積極的に打って出る、働きかけることが必要です。
 - ・夏休み中の「くぐの寺子屋」もはじめます。期間中、子ども達は図書館に走っていきます。本好きの子どもが多く、家に借りて行く子どもも多くいます。親子読書の一助にもなっているようで嬉しいことです。
 - ・子どもの読書離れの背景には、家庭内、大人の読書離れが進んでいることによるものと考えます。我々世代の子育て時には絵本や読み聞かせがなくてはならない育児ツールでした。寝かしつけの時や遊びの中に常に本がありました。時代の変化や流れに逆らうことは難しいことですが、あえて時間を作らないと「大切な時間」は取り戻せないと考えます。
 - ・言葉の読み方や意味を調べる時、スマホやパソコンなどで調べています。そ

れをあえて機械に頼らず、「辞典や辞書だけで調べてみよう」という時間、生活を復活させることも必要ではないでしょうか。

- ・近年、読書に関するイベントが増えてきました。場所も図書館だけではなく、書店、商業施設（商店街含む）でのイベント、貸しスペースを利用したものなど様々です。人の集まる場所で、本に関する楽しいイベントをすることで、読書に対する敷居を少しでも低くできるのではないかと思います。
- ・読書活動ではありませんが、私立だけではなく、公立の小中学校でも読書の時間や総合的な学習の時間で、数か月から1年かけて、子ども一人ひとりが、テーマを決めて調べ、レポートや論文を仕上げる取り組みを行う学校が増えています。小中学生のうちから探求学習を身に着けることは、大人になっても有利になると思います。高山市でも取り入れると良いと思います。
- ・子どもの頃（30年前）に比べ、読書をする機会や時間が増えていると感じます。子どもの時に本を読む習慣を身につけることで、読み解く力や伝える力が育まれると考えます。
- ・「読んでみたい」、「読みたい」と思える本との出会いのきっかけづくりが必要だと思います。「この本に救われた」、「この本できっかけができた」など、考え方が広がるようなことを伝えていくことも必要かと考えます。
- ・情報過多の時代に読書をさせることは容易なことではありません。私も読書は好きではないですが、必要な時はそれなりに本を読んだり調べたりします。子どもにもそれらのノウハウを教えるだけで強制する必要はないのではないかと思います。本を好きな人はちゃんと読むのですから。
- ・親が買ってくれた世界の童話集や写真で見る辞典など、何十回、何百回と繰り返し読んでいました。学校の休み時間に図書室に行くのが楽しみで、かたっぱしから読んでいた記憶があります。高校の時は論文提出のために図書館に足繁く通いました。（本を開いた時のワクワク感、さし絵の美しさ、紙の質感、匂いなど）本は、手に取って見ないとその魅力は分からないと思います。時代ですから、電子書籍で手軽に楽しむ方法もありますが、やはり、本そのもののページをめくり文書を目で追う、読書の楽しみを子どもや孫にも伝えていきたいと思います。
- ・子ども達だけではなく、大人的生活環境も変化し、活字離れや読書離れが問題となっている中、子どもや保護者へ読書活動を推進することは、とても難しいと思います。そのうえで、読書の重要性を伝え、ハード・ソフト面での環境を整え、きっかけづくり等に取り組んでおられるその一生懸命さが痛いほどに伝わってきます。
- ・子どもが本を選ぶとき、面白い面白くないか、自分が興味あるかないかで判断するようです。面白いと思って興味深かったら何度でも本棚から取り出

します。質の良い本だから選ぶということは、子どもにはなく、そう思うのはどうも大人に多いのではないのでしょうか。読書活動の重要性を伝えすぎると、かえって逃げ出したくもなります。とは言え、それまで本に親しむ経験がない子どもに、小学生になったからいきなり児童文学を読ませようというのは難しいことです。夏休みの読書感想文は「最悪！」と訴える親子が多いことも無視できません。

- ・家庭で無理のない動機付けのひとつとして、家庭に子どもが初めて見た絵本から、何度も何度も見返し暗記するほど見た絵本、パパ、ママが子どもの頃に好きだった本という具合に、本棚を一つ置くことで思い出話になり、興味から本に対する関心が広がることもあります。(我が家で実践)無理なく取り組めることが大切です。
- ・本に親しむきっかけづくりを進めるには、やはり、幼いころからお父さん、お母さんと一緒に絵本を楽しみ、物語の読み聞かせに耳をかたむけたという経験を積み重ねながら、本に親しむ土台作りをしてほしいと思います。
- ・自分が子どもの時代と比べ、町から書店がなくなっていき、沢山の本の中から探して選ぶとか、なんとなく本屋を訪れて新たな本と出会うというような経験が少なくなっていると感じます。図書館が以前より大切な場所になっているのだと感じました。小学校高学年から中学校2年生くらいまで、友達と図書館で本を借りた数を競ったような経験もありましたが、今の子ども達はどのようなのでしょうか？
- ・活動報告からは、様々な活動に対し、評価も高く、取り組みが順調である印象を受けますが、現場の皆様のご尽力のおかげだと思います。ただし、この報告からは、具体的な課題、現場の声が見えづらいように思います。指定管理で運営されている図書館については、熱意とご尽力により高い評価を受けておられることを知り、嬉しく、誇らしく思いました。こうした事実をもっと市民の皆様に知っていただくと良いと思いました。
- ・保育園、幼稚園、学校、公共施設などでは、他の活動もあるので、先生方や関わる方々に無理のないように配慮してほしいと思います。
- ・今後の取り組みについても、現場の声を大切にしてほしいです。現場での課題をひとつずつ解決していくことが推進につながると思います。
- ・児童館に行き思うのですが、この頃、お子さんを遊びに連れてみえるパパが多く、上手にお子さんと遊んでみえるので感心します。意外とママがスマホに夢中の方が多いです。
- ・絵本や本の面白さ、奥深さは大人は誰もが口にしますが、肝心のその大人がテレビ・スマホにどっぷり浸かっている感があるように思います。映像メディアは自分(見る側)スピードでは進んでくれず、受け身で流され、それをと

り込んでいくので、そのことを危惧しています。個々にあったスピードで成長するために、今こそ本・絵本・おはなしを聞く機会が必要だと思い、日々読み聞かせボランティアを行っています。今後も行政の力を小さな者が、がんばれるように注いでほしいです。

- ・「英語で読み聞かせ」はけっこう人が来るのに、その直前までやっている（日本語での）読み聞かせには人が来ません。英語も大切だが、じっくりと味わえるおはなしの世界は、日本語でまず楽しんでほしいと思います。
- ・幼稚園にも夏休みがあります。そんな時に親子で絵本に親しんでもらえるような取り組みをしていきたいと思います。何か良いアイデアがあったらぜひ教えてほしいと思います。
- ・便利な世の中ですが、絵本など、子ども達にたくさんふれてほしいと思います。生の文化・人形劇など、近くで見ることが少ないなと思ひ残念です。
- ・図書館は教育や文化の向上に多大なる影響を与えているので、今後も地域のためにより推進していただくことを望みます。また、サービスの向上も願います。
- ・最近パソコンやスマートフォンに頼ってしまうことが多いので、園でも膝に座って肌のぬくもりを感じながら、読み聞かせをすることの大切さを伝えていきたいと思います。
- ・園内の絵本を充実させていきたいですが、予算が厳しいので図書館イベントを使いたいと考えています。身近な園の図書コーナーに、もっともっと色々な分野の絵本などを置いてあげたいと思っています。
- ・上宝支所には図書館があり、小さな子どもも行き、うらやましいです。奥飛騨にもぜひ図書館（絵本や大人向け）があると良いと思う毎日です。
- ・学校では、朝読書を位置づけている所が多いです。このように、毎日継続して本にふれあえる取り組みを行い、生涯読書を継続していけたらと思います。家庭では、親が読書をする子どももするようになるので、親への啓発も大切だと思っています。
- ・読書の時間を設定しなければ本を読めない子ども達があります。読み聞かせは好きだが、自分で読むことに抵抗を感じる子がいます。しかし、意図的に図書館を利用させることは大切にしていきたいと思います。（本との出会いの場）
- ・学校図書館指導員は司書資格を持ち、研修に参加し、経験も積んでスキルアップすべく努力していますが、何年たっても給料が1円も上がらないことに不満を感じます。
- ・平成29年度より、図書館指導員の方が各学校1名常勤で配置されたことは、学校としてはとてもありがたいことです。図書館に行くと指導員の先生に本

のことについてすぐに聞くことができ、学校職員も授業で図書館を活用しやすくなります。今後もぜひ各学校1名常勤で配置をお願いしたいです。

- ・「読書をする人だけがたどり着ける場所」という本を読みました。そんな場所へ行ける子ども達が増えることを願います。
- ・子ども達にもっと本を読んでほしいです。そのためには親が図書館に興味をもって足を運ぶことが大事だと思います。親を呼びこむ企画、工夫をお願いします。
- ・楽しい図書館であることも必要だと思います。静かに本を読むだけでなく、図書館を作ったイベント等、企画してください。
- ・読書活動の充実を図るため、教科で調べる学習の場を設けられるよう意図的に作っていきたいと思います。また週2回ほど朝読書を位置づけているため、読書ファイルの活用をしっかりと取り組んでいきたいと思います。市の図書館が遠距離なので移動図書館などで活用していきたいです。
- ・学校でさらに図書館を活用した実践が行えないか検討していきたいと思いました。図書館祭りを通して、子ども達も実際に本を手に取り読む機会につながっているのととても良い取り組みになっていると思います。
- ・学校の図書購入費に多くの金額をあてていただいています。ありがたい一方で学校設備が他地区に遅れをとっている部分もあり、(クーラーやプリンターなど)少ない額で多くの方に多くの本が行き渡るシステムを作りつつ、他にお金をかけるべき点にも回していただけるとありがたいと思っています。
- ・図書館が学校になじめない子ども達の居場所になればありがたいと思います。担任には言いにくいことも図書館指導員の先生に話している生徒がいます。生活指導の一環を担っているようにも思います。
- ・中学生は本を読みたいと思っても、なかなか読む時間を作れません。学校の中で時間を作ろうと思っても、時間的な難しさがあります。イベントのような形でも、もっと本とふれあえる時間を作っていききたいし、授業でも取り上げていきたいと思います。
- ・読書活動の推進について、またご指導いただけたらと思います。よろしくお願い致します。
- ・郷土資料の充実が図れない点に困っています。
- ・本校の図書館は位置的にも、また忙しい日々を過ごす生徒達からはなかなか利用数が伸びませんが、中には毎日通う生徒もいます。そんな中で様々なアピール、工夫をしながら少しでも多くの生徒に利用してもらいたいと思います。新たな取り組みに目を向けながら、読書の大切さ、楽しさが伝わるように今後も努力していきたいと思います。

○高山市子ども読書活動推進計画策定経緯

NO	月 日	内 容
1	令和元年 5月29日	第1回高山市社会教育委員定例会議 高山市子ども読書活動推進計画（第三次）の策定方針について ・策定方針 ・第二次計画の取り組み
2	5月30日	高山市図書館ボランティアグループ・読書サークル意見交換会 ・策定方針 ・第二次計画の取り組み
3	5月30日～ 6月21日	アンケート調査 (ボランティアグループ・読書サークル)
4	6月17日～ 7月5日	アンケート調査 (幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校)
5	6月26日	定例教育委員会 報告
6	7月12日～ 7月26日	第二次計画の見直しに関する調査 ・小中学校の取り組み実績など（小・中学校）
7	8月29日	高山市子どもの読書活動支援・図書館等連携協議会 高山市子ども読書活動推進計画（第三次）について ・基本的な考え方について ・現状（アンケート調査結果）について ・骨子（案）について
8	9月18日	第2回高山市社会教育委員定例会議 高山市子ども読書活動推進計画（第三次）について ・基本的な考え方について ・現状（アンケート調査結果）について ・骨子（案）について
9	9月30日	定例教育委員会 報告
10	令和2年 1月29日	高山市社会教育委員臨時会議 高山市子ども読書活動推進計画（第三次）（素案）について
11	2月4日～ 2月21日	高山市子ども読書活動推進計画（第三次）（素案）意見募集 (ボランティアグループ・読書サークル) (幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校)
12	2月28日	定例教育委員会 報告

○子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成十三年十二月十二日)

(法律第百五十四号)

第百五十三回臨時国会

第一次小泉内閣

子どもの読書活動の推進に関する法律をここに公布する。

子どもの読書活動の推進に関する法律

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、

子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活

動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

高山市子ども読書活動推進計画

2020年(令和2年)3月

高山市市民活動部生涯学習課